

岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書

平成 25 年 11 月

岡 山 市

目 次

第1章 調査概要	1
第1節 調査目的	1
第2節 調査内容	1
1 調査対象ごみ	1
2 調査対象地域及び調査時期	1
第3節 調査手順	3
1 調査場所	3
2 作業場所	3
3 調査手順	4
(1) 調査検体の搬入	4
(2) 調査検体の縮分方法	4
(3) 事前計量作業	5
(4) 組成調査作業	5
4 組成調査項目	6
第2章 家庭ごみ組成分析調査結果	8
第1節 地域的なごみ排出特性の把握	8
1 可燃ごみの排出特性	8
(1) 本市全域	8
(2) 西部地区	12
(3) 東部地区	16
(4) 可燃ごみの排出特性の総括	20
2 不燃ごみの排出特性	23
(1) 本市全域	23
(2) 西部地区	27
(3) 東部地区	31
(4) 不燃ごみの排出特性の総括	35
第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	38
1 可燃ごみの状況把握	38
2 不燃ごみの状況把握	40
3 小型家電製品の混入状況	42

第3節	容器包装廃棄物の混入状況の把握	44
1	可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	44
2	不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	45
第4節	再資源化及び減量化の可能性に関する検討	47
1	可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	47
2	不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	50
第5節	ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握	54
1	可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	54
	（1）可燃ごみの1袋当たりの投入量	54
	（2）可燃ごみの1袋当たりの投入容量	55
2	不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	56
	（1）不燃ごみの1袋当たりの投入量	56
	（2）不燃ごみの1袋当たりの投入容量	57
第3章	家庭ごみ組成分析調査結果の総括	58

調 查 概 要

第1章 調査概要

第1節 調査目的

本調査は、岡山市（以下、「本市」という。）内の家庭から排出されるごみの組成を調査することにより、資源化物がどの程度混入しているかを確認し、排出実態から見たごみの減量化・リサイクルの可能性を検討することを目的として実施している。また、調査結果の経年変化等を検証することにより、本市が実施している啓発活動の効果を確認することも目的としている。なお、本調査結果は、以下に示す項目で整理を行っている。

- ① 地域的なごみの排出特性の把握
- ② 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握
- ③ 容器包装廃棄物の混入状況の把握
- ④ 再資源化及び減量化の可能性に関する検討
- ⑤ ごみ袋1袋あたりに投入されるごみ量等の把握

第2節 調査内容

1 調査対象ごみ

本調査では、本市から排出される家庭ごみのうち「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」の2種類について調査を行った。

なお、「資源化物」、「粗大ごみ」、「事業系ごみ」については、今回の調査対象外とした。

2 調査対象地域及び調査時期

家庭ごみの調査対象地域及び調査時期は、表1-1、図1-1に示す通りとした。

なお、可燃ごみについては、生ごみなどが混入していることから臭気上の問題があるため、収集したごみは即日調査するものとした。

表1-1 調査対象地域及び調査時期

項目	旭川西部地域	旭川東部地域
調査対象地域	大窪地区、平田地区、津島地区	西大寺中野地区、福泊地区、御成町地区
可燃ごみ	収集日：平成25年10月8日(火) 調査日：同上日	収集日：平成25年10月11日(金) 調査日：同上日
不燃ごみ	収集日：平成25年10月9日(水) 調査日：平成25年10月10日(木)	収集日：平成25年10月9日(水) 調査日：同上日 (※西大寺中野地区の収集日のみ別日程で、平成25年10月2日(水)に実施)

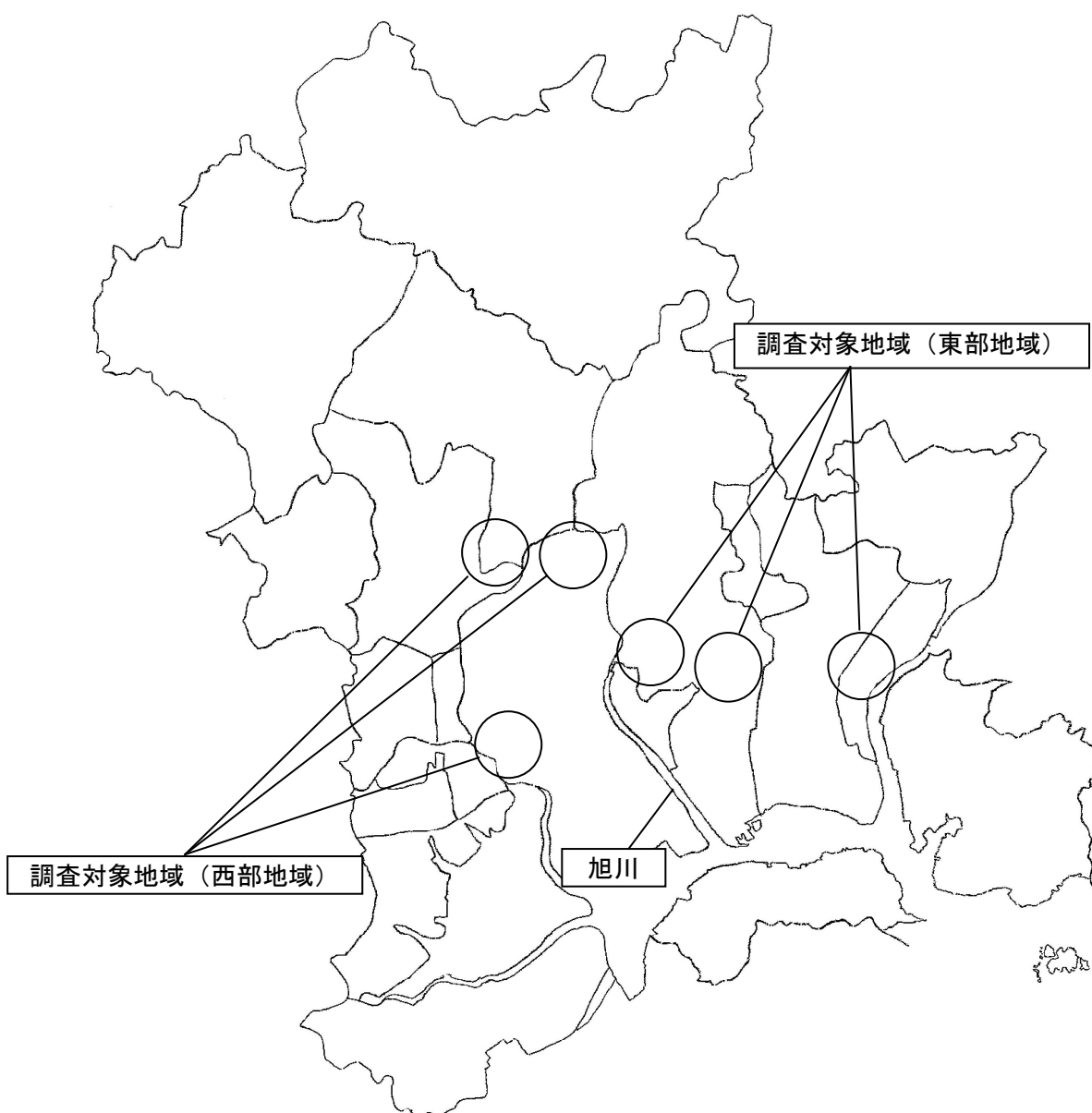


図1-1 調査対象地域

第3節 調査手順

1 調査場所

本調査は、岡山市東部リサイクルプラザの駐車場付近の未舗装部分にて実施した。調査実施場所を、図1-2に示す。



図1-2 調査実施場所

2 作業場所

本調査は、東部リサイクルプラザの駐車場付近を利用して実施することとしたため、ごみの飛散や臭気対策、雨よけ、調査検体の事前保管などを目的としてテントを設営し、組成調査は室内で実施するものとした。同時に、設営したテントの周囲は全面をシートなどで覆い、風による転倒などを防ぐ目的で各コーナーをロープで固定した。

3 調査手順

(1) 調査検体の搬入

今回の調査では、紙類やプラスチック類の汚れの状況や、生ごみの排出状況なども調査することとしたため、パッカー車による通常の収集では、収集時にごみ袋の一部が破碎または攪拌されてしまい、調査目的の一部である汚れの状況などが分からなくなると考えられたことから、軽トラックにより調査検体の確保を行うこととした。なお、調査検体の確保に当たっては、事前に町内会等へ了解を得た地区のステーションに排出されたごみを、本市の職員が回収する方法を採用している。

上記のようにして得られた調査検体は、地域性の偏りを少なくするため、一旦、図 1-3 に示す場所に地域毎に搬入するものとした。

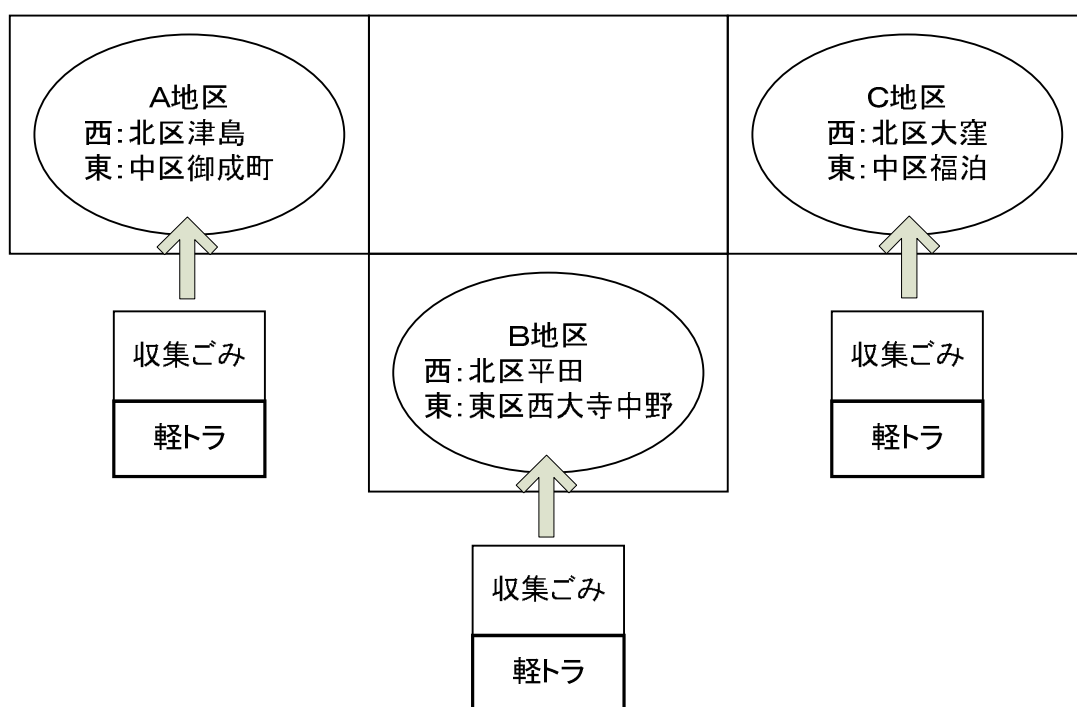


図1-3 調査検体の搬入場所

(2) 調査検体の縮分方法

一般的に調査検体の縮分¹⁾を行う場合、一旦ごみ袋からごみを出し、全てのごみを混合攪拌した後に四分法²⁾により、縮分したごみを組成調査する方法を採用するが、本調査においてこれを採用した場合、汚れの状況確認が困難となるため採用しなかった。

そこで本調査では、ごみ袋1袋あたりに何kgのごみが入っているのかを確認する目的と併せて、図 1-4 に示すような方法で縮分を行った。

まず、テントへ搬入したごみ（150～200kg 程度）を、大袋（45ℓ袋）、中袋（30ℓ袋）、小袋（20ℓ袋）、特小袋（10ℓ袋）、超特小袋（5ℓ袋）の 5 種類に分類し、それぞれ一列に並べる。その後、すべての種類の袋について奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第 1 次抽出）。

本方法を 3 地区分行い、各地域で約 70kg 程度になるように調整した後（第 2 次抽出）、それらを合計した約 210kg を最終調査検体とした。本方法を採用することにより、収集地域の偏りを極力少なくしている。

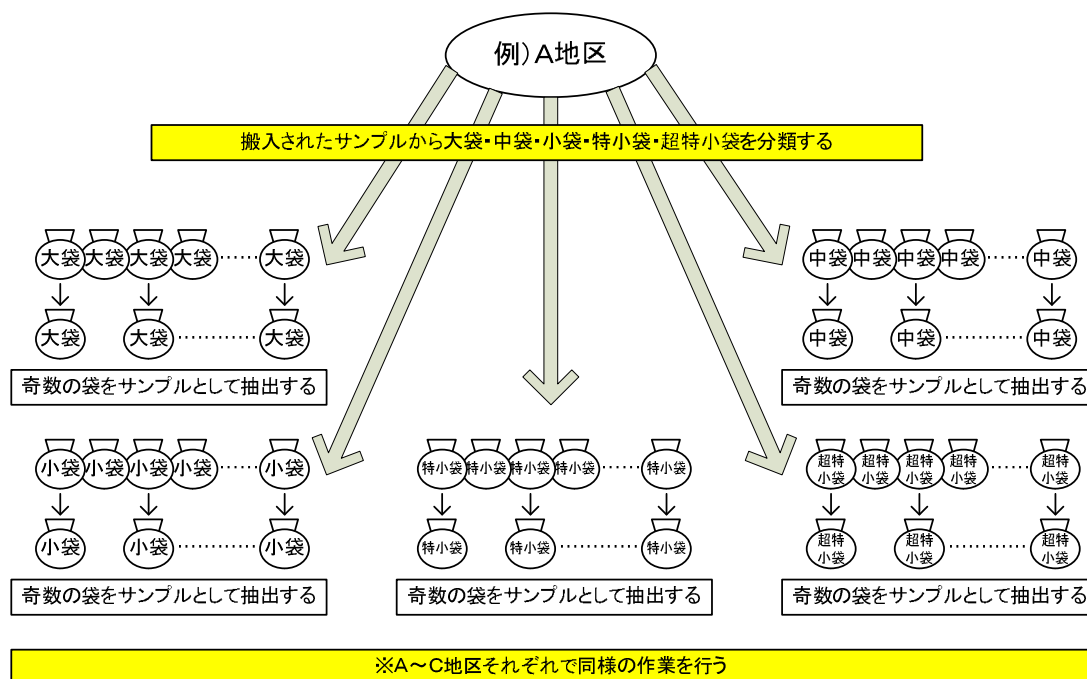


図1-4 縮分方法のイメージ

(3) 事前計量作業

前述した第 1 次抽出段階で抽出した全てのごみ袋を 1 袋ずつ計量し、見掛け比重³⁾やごみ袋 1 袋当たりの投入状況の確認を行った。

(4) 組成調査作業

本調査では、次項に示す組成調査の項目を分類し、それぞれ重量の計量と容積の確認を実施した。

-
- 1) 縮分：多量のサンプルから全体を代表するサンプルを抽出することを示す。
 - 2) 四分法：対象となるサンプルを十分に混合した後、4 等分して対角を 1 組として、一方を残し、一方を捨てて操作を繰り返すことにより、均一にサンプルを抽出する方法を示す。
 - 3) 見掛け比重：空間部分を含んだ状態の 1m³ 当たりの物質の重量を示す。

4 組成調査項目

今回実施した組成調査の項目を表 1-2 に示す。

表1-2 組成調査項目（1）

大分類	中分類	小分類	具体例	
紙類	飲料用紙パック (アルミ不使用)	1	飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml 以上	
		2	飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml 未満	
	ダンボール	3	ダンボール	
	新聞紙・チラシ	4	新聞紙	きれいな新聞紙
		5	再利用した新聞紙	水分等を含んだ新聞紙
		6	チラシ	きれいなチラシ
		7	再利用したチラシ	水分等を含んだチラシ
	書類・雑誌類	8	書類・雑誌類	
	雑紙	9	紙箱類	キャラメル・石鹼の箱・紙袋
		10	紙包装類	包装紙
		11	OA用紙	OA用紙
		12	シュレッターくず	シュレッターくず
		13	その他の雑紙	ダイレクトメール・手紙・はがき等
	リサイクルできない紙	14	紙おむつ以外	飲料パック(アルミ使用)・汚れた紙・紙コップ・紙皿・感熱紙・ティッシュペーパー・アルミはく
		15	紙おむつ	
厨芥類	食品類	16	手付かずの食品	手付かずの食品で原形があるもの
		17	調理くず・食べ残し	上記以外の食品残渣類
	食品以外	18	食品以外の厨芥類	ティーバッグ
布類	リサイクル可能	19	リサイクルできる布類	Tシャツ・タオル・和服・下着・シーツ
	リサイクル不可	20	リサイクルできない布類	小物・わた入りのもの・毛糸・ナイロン
木・竹・わら類	剪定枝	21	剪定枝	
	草	22	草	
	その他	23	その他の木・竹・わら・花	割り箸・鉛筆・わら
プラスチック類・ゴム・皮革類	ペットボトル	24	リサイクルできるペットボトル	飲料用・醤油用(きれいなもの)
		25	リサイクルできないペットボトル	タバコ等が混入したもの

表1-2 組成調査項目（2）

大分類	中分類	小分類		具体例
プラスチック類・ ゴム・皮革類	レジ袋	26	リサイクルできるレジ袋	きれいな袋
		27	リサイクルできないレジ袋	汚れのひどい袋
	発泡トレイ	28	リサイクルできる発泡トレイ	
		29	リサイクルできない発泡トレイ	汚れのひどいもの
	発泡スチロール	30	リサイクルできる発泡スチロール	
		31	リサイクルできない発泡スチロール	汚れのひどいもの
	その他のプラ製 容器包装	32	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	シャンプー容器等
		33	その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	汚れのひどい容器等
	容器包装以外の プラスチック類	34	容器包装以外のプラスチック類	プラスチック製品・おもちゃ・除湿剤・脱臭剤
	有料指定袋	35	有料指定袋	
ゴム・皮革類	36	ゴム・皮革類	合成樹脂製品・皮革類・長靴等	
不燃物類	金属類	37	スチール缶	飲料缶・菓子缶・缶詰缶・スプレー缶
		38	汚れたスチール缶	
		39	アルミ缶	
		40	汚れたアルミ缶	
		41	その他金属類	なべ・食用油缶・延長コード・ペンキ缶
	ガラス類	42	リターナブルびん	ビールびん・一升びん・牛乳びん・コーラびん
		43	汚れたリターナブルびん	
		44	ワンウェイびん	調味料のびん・インスタントコーヒーのびん・ドリンク剤のびん
		45	汚れたワンウェイびん	
		46	その他ガラス類	油びん・化粧品びん・汚れたびん・窓ガラス・耐熱ガラス・ガラスコップ
	その他	47	陶磁器類	植木鉢・茶碗
		48	小型家電製品※	
		49	複合素材	かいろう・鏡・保冷剤・乾燥剤
		50	医療系	薬用容器・注射針等
51		乾電池・体温計(水銀入)		
52		蛍光灯		
選別残渣	選別残渣	53	選別残渣	分類できないもの

※小型家電製品については、名称と個数を別途記録した。

家庭ごみ組成分析調査結果

第2章 家庭ごみ組成分析調査結果

第1節 地域的なごみ排出特性の把握

本節では、今回実施した家庭ごみの組成分析調査のサンプルの特徴を整理している。

1 可燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-1 に示した。本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(22.4%)、「厨芥類」(48.1%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(19.3%)の3種類であり、全体の約 89.8%を占めていた。個別にみると「紙類」では新聞紙・チラシ(3.4%)、雑紙(3.6%)、リサイクルできない紙(13.1%)が、「厨芥類」では食品類(47.8%)が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(9.1%)、容器包装以外のプラスチック類(4.2%)の構成割合が高かった。

次に、本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(26.0%)、「厨芥類」(10.9%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(56.4%)の3種類であり、全体の約 93.3%を占めていた。個別にみると「紙類」では雑紙(6.8%)、リサイクルできない紙(13.1%)、「厨芥類」では食品類(10.8%)が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではレジ袋(12.1%)、その他のプラ製容器包装(28.8%)、容器包装以外のプラスチック類(6.1%)、有料指定袋(4.3%)の構成割合が高かった。

図 2-1 に重量比と容積比の比較を示した。重量比では「厨芥類」の構成割合が高く、容積比では「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成割合が高いという傾向は、過去の調査結果と同様であった。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-2、図 2-2～3 に示した。本年度の調査結果は、平成 24 年度の調査結果と概ね同様な傾向であったが、重量比における「不燃物類」の構成比と容積比における「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が若干増加していた。

表2-1 組成分析調査結果 1 (本市全域：可燃ごみ)

項目	全域(可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	94.56	2.071	22.43	26.00	0.046
飲料用紙パック(アルミ不使用)	-	1.97	0.071	0.47	0.89	0.028
500ml以上	1	1.96	0.071	0.47	0.89	0.028
500ml未満	2	0.008	0.0002	0.002	0.003	0.040
ダンボール	3	3.58	0.127	0.85	1.59	0.028
新聞紙・チラシ	-	14.50	0.280	3.43	3.51	0.052
新聞紙	4	4.47	0.113	1.06	1.42	0.040
再利用した新聞紙	5	3.30	0.075	0.78	0.94	0.044
チラシ	6	5.79	0.036	1.37	0.45	0.161
再利用したチラシ	7	0.94	0.056	0.22	0.70	0.017
書類・雑誌類	8	4.56	0.010	1.08	0.13	0.456
雑紙	-	14.98	0.540	3.55	6.78	0.028
紙箱類	9	8.45	0.388	2.01	4.87	0.022
紙包装類	10	0.10	0.008	0.02	0.10	0.013
OA用紙	11	0.43	0.011	0.10	0.14	0.039
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13	6.00	0.133	1.42	1.67	0.045
リサイクルできない紙	-	54.97	1.043	13.05	13.10	0.053
紙おむつ以外	14	30.23	0.788	7.18	9.90	0.038
紙おむつ	15	24.74	0.255	5.87	3.20	0.097
厨芥類	-	202.71	0.868	48.13	10.90	0.234
食品類	-	201.21	0.857	47.77	10.76	0.235
手付かずの食品	16	12.98	0.035	3.08	0.44	0.371
調理くず・食べ残し	17	188.23	0.822	44.69	10.32	0.229
食品以外	18	1.50	0.011	0.36	0.14	0.136
布類	-	14.92	0.207	3.54	2.60	0.072
リサイクル可能	19	5.74	0.096	1.36	1.21	0.060
リサイクル不可	20	9.18	0.111	2.18	1.39	0.083
木・竹・わら類	-	16.10	0.258	3.81	3.24	0.062
剪定枝	21	2.04	0.042	0.48	0.53	0.049
草	22	1.41	0.037	0.33	0.46	0.038
その他	23	12.65	0.179	3.00	2.25	0.071
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	81.44	4.492	19.32	56.41	0.018
ペットボトル	-	2.73	0.075	0.64	0.94	0.036
リサイクルできるペットボトル	24	2.00	0.063	0.47	0.79	0.032
リサイクルできないペットボトル	25	0.73	0.012	0.17	0.15	0.061
レジ袋	-	5.65	0.963	1.34	12.10	0.006
リサイクルできるレジ袋	26	1.62	0.393	0.38	4.94	0.004
リサイクルできないレジ袋	27	4.03	0.570	0.96	7.16	0.007
発泡トレイ	-	1.64	0.194	0.39	2.43	0.008
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.48	0.072	0.11	0.90	0.007
リサイクルできない発泡トレイ	29	1.16	0.122	0.28	1.53	0.010
発砲スチロール	-	0.27	0.041	0.06	0.51	0.007
リサイクルできる発砲スチロール	30	0.26	0.040	0.06	0.50	0.006
リサイクルできない発砲スチロール	31	0.01	0.0005	0.002	0.006	0.020
その他のプラ製容器包装	-	38.21	2.293	9.07	28.80	0.017
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	32	6.88	0.577	1.63	7.25	0.012
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	33	31.33	1.716	7.44	21.55	0.018
容器包装以外のプラスチック類	34	17.66	0.485	4.19	6.09	0.036
有料指定袋	35	3.73	0.343	0.89	4.31	0.011
ゴム・皮革類	36	11.55	0.098	2.74	1.23	0.118

表2-1 組成分析調査結果2（本市全域：可燃ごみ）

項目	全域（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	11.00	0.063	2.61	0.79	0.174
金属類	-	0.74	0.004	0.18	0.05	0.180
スチール缶	37	0.08	0.0005	0.02	0.006	0.160
汚れたスチール缶	38	0.04	0.0003	0.009	0.004	0.133
アルミ缶	39					
汚れたアルミ缶	40					
その他金属類	41	0.62	0.003	0.15	0.04	0.188
ガラス類	-	0.52	0.001	0.12	0.01	0.520
リターナブルびん	42					
汚れたリターナブルびん	43					
ワンウェイびん	44					
汚れたワンウェイびん	45	0.52	0.001	0.12	0.01	0.520
その他ガラス類	46					
その他	-	9.74	0.058	2.31	0.73	0.168
陶磁器類	47					
小型家電製品	48	6.86	0.047	1.63	0.59	0.146
複合素材	49	2.84	0.011	0.67	0.14	0.258
医療系	50					
乾電池・体温計（水銀入）	51	0.04	0.0001	0.01	0.001	0.400
蛍光灯	52					
選別残渣	53	0.44	0.004	0.16	0.06	0.110
総合計		421.17	7.9629	100.00	100.00	

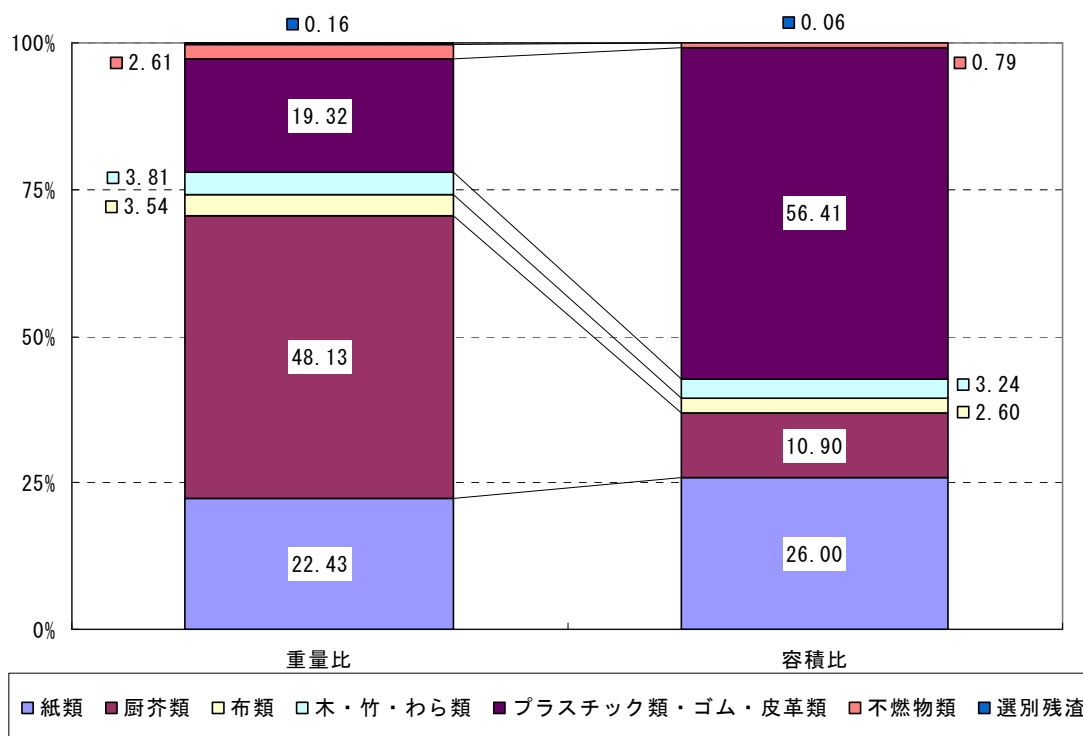


図2-1 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：可燃ごみ）

表2-2 大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

分類	項目	全域-可燃ごみ(重量比)(%)					全域-可燃ごみ(容積比)(%)				
		H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度
紙類		22.43	20.18	20.67	24.48	25.59	26.00	24.05	25.99	33.69	39.57
厨芥類		48.13	49.94	49.04	40.17	42.41	10.90	15.01	14.48	10.63	8.18
布類		3.54	5.75	7.66	3.23	4.04	2.60	5.31	5.96	3.00	3.04
木・竹・わら類		3.81	5.43	5.03	6.55	6.88	3.24	3.62	4.13	4.53	3.86
プラスチック類・ ゴム・皮革類		19.32	17.72	16.09	24.15	17.98	56.41	51.74	49.07	47.64	44.92
不燃物類		2.61	0.82	1.21	0.84	0.45	0.79	0.16	0.23	0.39	0.21
選別残渣		0.16	0.16	0.30	0.58	2.65	0.06	0.11	0.14	0.12	0.22
合計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

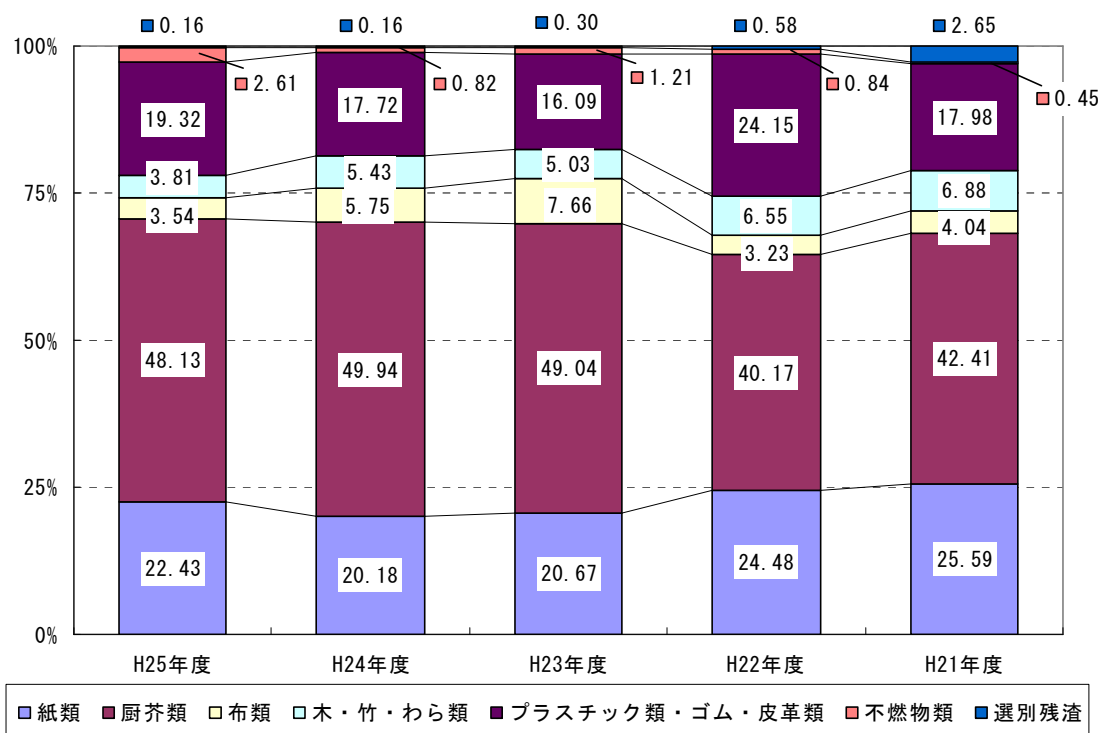


図2-2 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

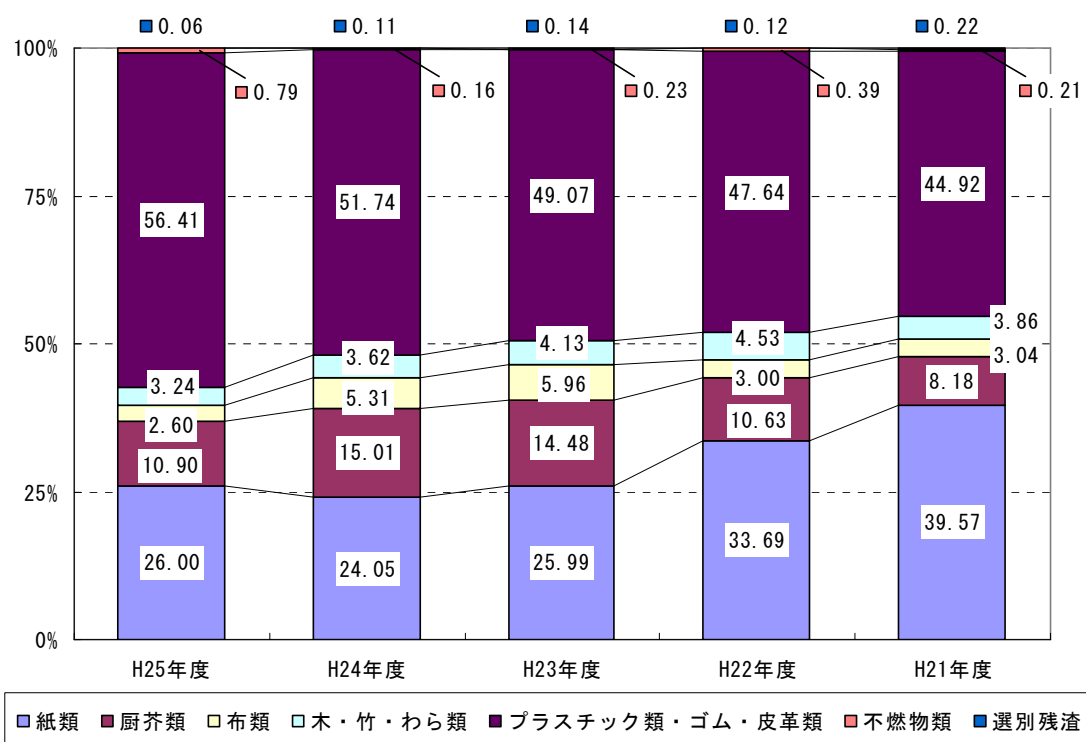


図2-3 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

（2）西部地区

今回実施した西部地区の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-3 に示した。西部地区の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（18.3%）、「厨芥類」（47.8%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（23.6%）の 3 種類であり、全体の約 89.7%を占めていた。個別にみると「紙類」では新聞紙・チラシ（2.9%）、雑紙（3.8%）、リサイクルできない紙（8.8%）が、「厨芥類」では食品類（47.7%）が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装（10.5%）、容器包装以外のプラスチック類（4.5%）、ゴム・皮革類（4.9%）の構成割合が高かった。

次に、西部地区の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（25.7%）、「厨芥類」（11.3%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（55.7%）の 3 種類であり、全体の約 92.7%を占めていた。個別にみると「紙類」では新聞紙・チラシ（4.2%）、雑紙（7.0%）、リサイクルできない紙（11.9%）が、「厨芥類」では食品類（11.3%）が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではレジ袋（11.4%）、その他プラ製容器包装（29.3%）、容器包装以外のプラスチック類（4.5%）、有料指定袋（3.6%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された（図 2-4 参照）。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-4、図 2-5～6 に示した。本年度の調査結果は、本市全域と概ね同様な傾向であった。

表2-3 組成分析調査結果 1 (西部地区：可燃ごみ)

項目	西部地区 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	39.57	1.084	18.33	25.74	0.037
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-	0.86	0.034	0.40	0.81	0.025
500ml以上	1	0.86	0.034	0.40	0.81	0.025
500ml未満	2					
ダンボール	3	1.42	0.068	0.66	1.61	0.021
新聞紙・チラシ	-	6.25	0.178	2.89	4.23	0.035
新聞紙	4	1.73	0.092	0.80	2.18	0.019
再利用した新聞紙	5	1.11	0.053	0.51	1.26	0.021
チラシ	6	3.04	0.015	1.41	0.36	0.203
再利用したチラシ	7	0.37	0.018	0.17	0.43	0.021
書類・雑誌類	8	3.86	0.006	1.79	0.14	0.643
雑紙	-	8.25	0.296	3.82	7.03	0.028
紙箱類	9	4.52	0.218	2.09	5.18	0.021
紙包装類	10	0.04	0.005	0.02	0.12	0.008
OA用紙	11	0.35	0.006	0.16	0.14	0.058
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13	3.34	0.067	1.55	1.59	0.050
リサイクルできない紙	-	18.93	0.502	8.77	11.92	0.038
紙おむつ以外	14	15.78	0.451	7.31	10.71	0.035
紙おむつ	15	3.15	0.051	1.46	1.21	0.062
厨芥類	-	103.15	0.477	47.78	11.33	0.216
食品類	-	102.89	0.475	47.66	11.28	0.217
手付かずの食品	16	7.89	0.020	3.65	0.47	0.395
調理くず・食べ残し	17	95.00	0.455	44.01	10.81	0.209
食品以外	18	0.26	0.002	0.12	0.05	0.130
布類	-	9.26	0.154	4.29	3.66	0.060
リサイクル可能	19	4.65	0.090	2.15	2.14	0.052
リサイクル不可	20	4.61	0.064	2.14	1.52	0.072
木・竹・わら類	-	5.20	0.099	2.41	2.34	0.053
剪定枝	21	0.42	0.009	0.19	0.21	0.047
草	22	0.40	0.009	0.19	0.21	0.044
その他	23	4.38	0.081	2.03	1.92	0.054
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	51.04	2.347	23.64	55.71	0.022
ペットボトル	-	1.90	0.058	0.88	1.38	0.033
リサイクルできるペットボトル	24	1.23	0.048	0.57	1.14	0.026
リサイクルできないペットボトル	25	0.67	0.010	0.31	0.24	0.067
レジ袋	-	3.18	0.481	1.47	11.42	0.007
リサイクルできるレジ袋	26	0.68	0.155	0.31	3.68	0.004
リサイクルできないレジ袋	27	2.50	0.326	1.16	7.74	0.008
発泡トレイ	-	1.10	0.142	0.51	3.37	0.008
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.37	0.057	0.17	1.35	0.006
リサイクルできない発泡トレイ	29	0.73	0.085	0.34	2.02	0.009
発砲スチロール	-	0.01	0.0005	0.005	0.01	0.020
リサイクルできる発砲スチロール	30					
リサイクルできない発砲スチロール	31	0.01	0.0005	0.005	0.01	0.020
その他のプラ製容器包装	-	22.66	1.235	10.49	29.33	0.018
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	32	2.32	0.220	1.07	5.22	0.011
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	33	20.34	1.015	9.42	24.11	0.020
容器包装以外のプラスチック類	34	9.71	0.188	4.50	4.46	0.052
有料指定袋	35	1.99	0.150	0.92	3.56	0.013
ゴム・皮革類	36	10.49	0.092	4.86	2.18	0.114

表2-3 組成分析調査結果2（西部地区：可燃ごみ）

項目	西部地区（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	7.38	0.048	3.41	1.13	0.153
金属類	-	0.20	0.0006	0.09	0.01	0.333
スチール缶	37					
汚れたスチール缶	38	0.04	0.0003	0.02	0.007	0.133
アルミ缶	39					
汚れたアルミ缶	40					
その他金属類	41	0.16	0.0003	0.07	0.007	0.533
ガラス類	-	0.22	0.0005	0.10	0.01	0.440
リターナブルびん	42					
汚れたリターナブルびん	43					
ワンウェイびん	44					
汚れたワンウェイびん	45	0.22	0.0005	0.10	0.01	0.440
その他ガラス類	46					
その他	-	6.96	0.047	3.22	1.11	0.148
陶磁器類	47					
小型家電製品	48	6.70	0.046	3.10	1.09	0.146
複合素材	49	0.26	0.001	0.12	0.02	0.260
医療系	50					
乾電池・体温計（水銀入）	51					
蛍光灯	52					
選別残渣	53	0.28	0.002	0.15	0.09	0.140
総合計		215.88	4.2106	100.00	100.00	

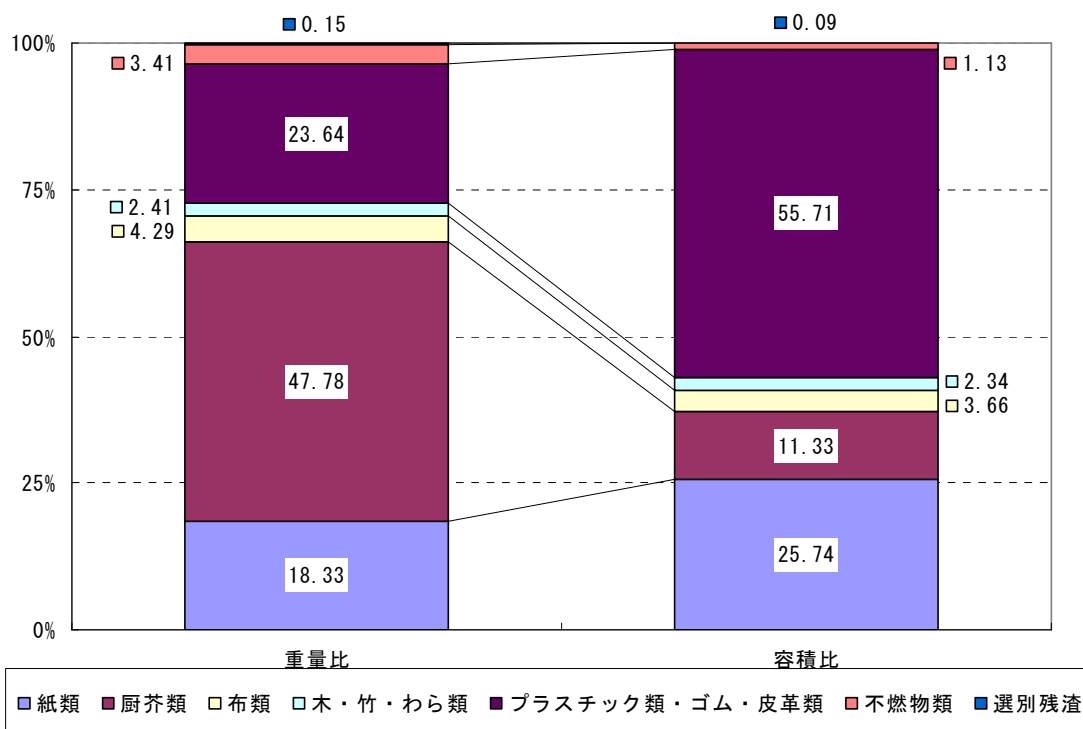


図2-4 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地区：可燃ごみ）

表2-4 大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：可燃ごみ）

項目	西部地区-可燃ごみ(重量比)(%)					西部地区-可燃ごみ(容積比)(%)				
	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度
紙類	18.33	16.65	19.59	25.58	27.48	25.74	20.55	23.13	37.75	32.30
厨芥類	47.78	46.09	41.90	39.24	42.81	11.33	14.08	12.28	9.98	9.62
布類	4.29	8.71	10.12	4.64	4.11	3.66	7.83	7.72	3.42	3.10
木・竹・わら類	2.41	7.39	8.62	3.45	2.35	2.34	4.21	6.60	1.69	1.85
プラスチック類・ ゴム・皮革類	23.64	20.52	17.71	25.08	19.30	55.71	53.13	49.79	46.44	52.85
不燃物類	3.41	0.47	1.86	1.24	0.26	1.13	0.10	0.38	0.57	0.06
選別残渣	0.15	0.17	0.20	0.77	3.69	0.09	0.10	0.10	0.15	0.22
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

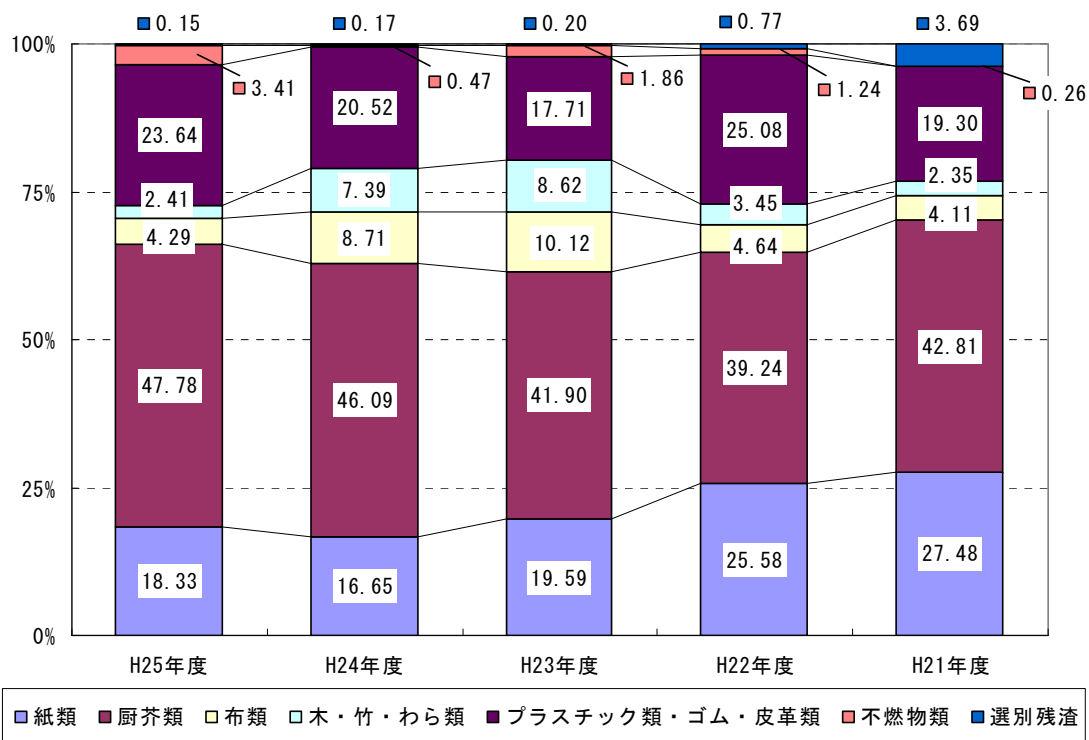


図2-5 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：可燃ごみ）

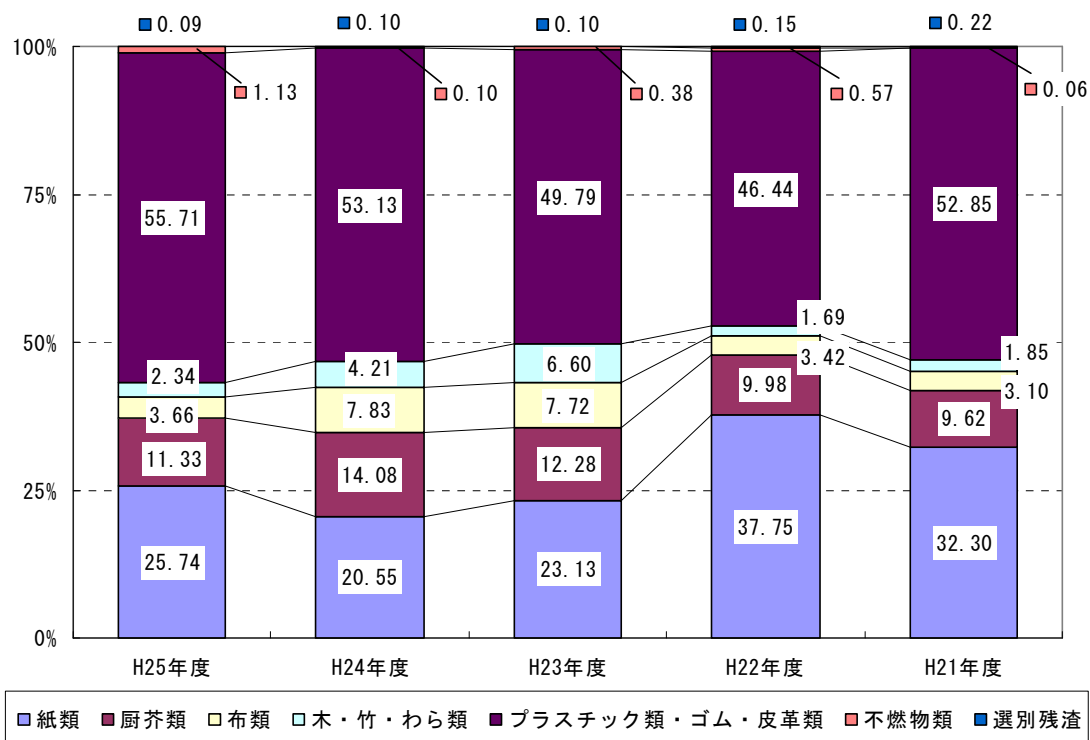


図2-6 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：可燃ごみ）

(3) 東部地区

今回実施した東部地区の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-5 に示した。東部地区の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「紙類」(26.8%)、「厨芥類」(48.5%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(14.8%) の 3 種類であり、全体の約 90.1% を占めていた。個別にみると「紙類」では新聞紙・チラシ (4.0%)、雑紙 (3.3%)、リサイクルできない紙 (17.6%) が、「厨芥類」では食品類 (47.9%) が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装 (7.6%)、容器包装以外のプラスチック (3.9%) の構成割合が高かった。

次に、東部地区の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は「紙類」(26.3%)、「厨芥類」(10.4%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(57.2%) の 3 種類であり、全体の約 93.9% を占めていた。個別にみると「紙類」では雑紙 (6.5%)、リサイクルできない紙 (14.4%) が、「厨芥類」では食品類 (10.2%) が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではレジ袋 (12.8%)、その他のプラ製容器包装 (28.2%)、容器包装以外のプラスチック類 (7.9%)、有料指定袋 (5.1%) の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図 2-7 参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-6 及び図 2-8～9 に示した。本年度の調査結果は、平成 24 年度の調査結果と概ね同様な傾向であったが、「厨芥類」の構成比が減少して、「紙類」の構成比が若干増加していた。

表 2-5 組成分析調査結果 1 (東部地区: 可燃ごみ)

項目	東部地区 (可燃ごみ)					
	重量・容積			重量比・容積比・見掛け比重		
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	54.99	0.987	26.79	26.32	0.056
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-	1.11	0.037	0.54	1.00	0.030
500ml 以上	1	1.10	0.037	0.54	0.99	0.030
500ml 未満	2	0.008	0.0002	0.004	0.005	0.040
ダンボール	3	2.16	0.059	1.05	1.57	0.037
新聞紙・チラシ	-	8.25	0.102	4.02	2.72	0.081
新聞紙	4	2.74	0.021	1.33	0.56	0.130
再利用した新聞紙	5	2.19	0.022	1.07	0.59	0.100
チラシ	6	2.75	0.021	1.34	0.56	0.131
再利用したチラシ	7	0.57	0.038	0.28	1.01	0.015
書類・雑誌類	8	0.70	0.004	0.34	0.11	0.175
雑紙	-	6.73	0.244	3.28	6.50	0.028
紙箱類	9	3.93	0.170	1.91	4.53	0.023
紙包装類	10	0.06	0.003	0.03	0.08	0.020
OA用紙	11	0.08	0.005	0.04	0.13	0.016
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13	2.66	0.066	1.30	1.76	0.040
リサイクルできない紙	-	36.04	0.541	17.56	14.42	0.067
紙おむつ以外	14	14.45	0.337	7.04	8.98	0.043
紙おむつ	15	21.59	0.204	10.52	5.44	0.106
厨芥類	-	99.56	0.391	48.49	10.42	0.255
食品類	-	98.32	0.382	47.89	10.18	0.257
手付かずの食品	16	5.09	0.015	2.48	0.40	0.339
調理くず・食べ残し	17	93.23	0.367	45.41	9.78	0.254
食品以外	18	1.24	0.009	0.60	0.24	0.138
布類	-	5.66	0.053	2.76	1.41	0.107
リサイクル可能	19	1.09	0.006	0.53	0.16	0.182
リサイクル不可	20	4.57	0.047	2.23	1.25	0.097
木・竹・わら類	-	10.90	0.159	5.31	4.24	0.069
剪定枝	21	1.62	0.033	0.79	0.88	0.049
草	22	1.01	0.028	0.49	0.75	0.036
その他	23	8.27	0.098	4.03	2.61	0.084
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	30.40	2.145	14.82	57.16	0.014
ペットボトル	-	0.83	0.017	0.41	0.45	0.049
リサイクルできるペットボトル	24	0.77	0.015	0.38	0.40	0.051
リサイクルできないペットボトル	25	0.06	0.002	0.03	0.05	0.030
レジ袋	-	2.47	0.482	1.21	12.84	0.005
リサイクルできるレジ袋	26	0.94	0.238	0.46	6.34	0.004
リサイクルできないレジ袋	27	1.53	0.244	0.75	6.50	0.006
発泡トレイ	-	0.54	0.052	0.26	1.39	0.010
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.11	0.015	0.05	0.40	0.007
リサイクルできない発泡トレイ	29	0.43	0.037	0.21	0.99	0.012
発砲スチロール	-	0.26	0.040	0.13	1.07	0.006
リサイクルできる発砲スチロール	30	0.26	0.040	0.13	1.07	0.006
リサイクルできない発砲スチロール	31					
その他のプラ製容器包装	-	15.55	1.058	7.57	28.19	0.015
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	32	4.56	0.357	2.22	9.51	0.013
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	33	10.99	0.701	5.35	18.68	0.016
容器包装以外のプラスチック類	34	7.95	0.297	3.87	7.92	0.027
有料指定袋	35	1.74	0.193	0.85	5.14	0.009
ゴム・皮革類	36	1.06	0.006	0.52	0.16	0.177

表2-5 組成分析調査結果2（東部地区：可燃ごみ）

項目	東部地区（可燃ごみ）					
	重量・容積			重量比・容積比・見掛け比重		
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	3.62	0.015	1.77	0.40	0.240
金属類	-	0.54	0.004	0.26	0.09	0.154
スチール缶	37	0.08	0.0005	0.04	0.01	0.160
汚れたスチール缶	38					
アルミ缶	39					
汚れたアルミ缶	40					
その他金属類	41	0.46	0.003	0.22	0.08	0.153
ガラス類	-	0.30	0.0005	0.15	0.01	0.600
リターナブルびん	42					
汚れたリターナブルびん	43					
ワンウェイびん	44					
汚れたワンウェイびん	45	0.30	0.0005	0.15	0.01	0.600
その他ガラス類	46					
その他	-	2.78	0.011	1.36	0.30	0.250
陶磁器類	47					
小型家電製品	48	0.16	0.001	0.08	0.03	0.160
複合素材	49	2.58	0.010	1.26	0.27	0.258
医療系	50					
乾電池・体温計（水銀入）	51	0.04	0.0001	0.02	0.003	0.400
蛍光灯	52					
選別残渣	53	0.16	0.002	0.06	0.05	0.080
総合計		205.29	3.7523	100.00	100.00	

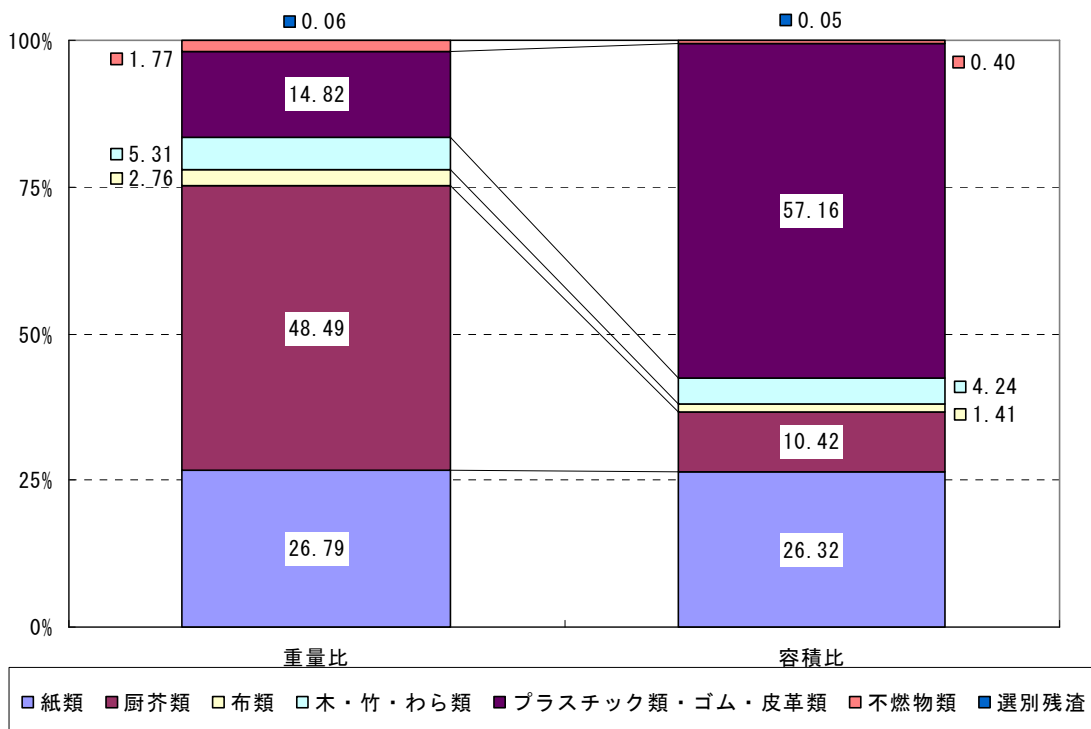


図2-7 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地区：可燃ごみ）

表2-6 大分類組成分析調査結果の比較（東部地区：可燃ごみ）

分類	東部地区-可燃ごみ(重量比)(%)					東部地区-可燃ごみ(容積比)(%)				
	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度
紙類	26.79	24.08	21.72	23.33	23.67	26.32	28.50	28.89	28.86	44.58
厨芥類	48.49	54.21	56.03	41.14	42.01	10.42	16.21	16.72	11.39	7.19
布類	2.76	2.47	5.26	1.77	3.97	1.41	2.06	4.19	2.50	3.00
木・竹・わら類	5.31	3.24	1.51	9.76	11.46	4.24	2.88	1.63	7.89	5.25
プラスチック類・ ゴム・皮革類	14.82	14.61	14.50	23.19	16.64	57.16	49.90	48.35	49.07	39.44
不燃物類	1.77	1.19	0.58	0.43	0.65	0.40	0.25	0.07	0.19	0.31
選別残渣	0.06	0.20	0.40	0.38	1.60	0.05	0.20	0.15	0.10	0.23
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

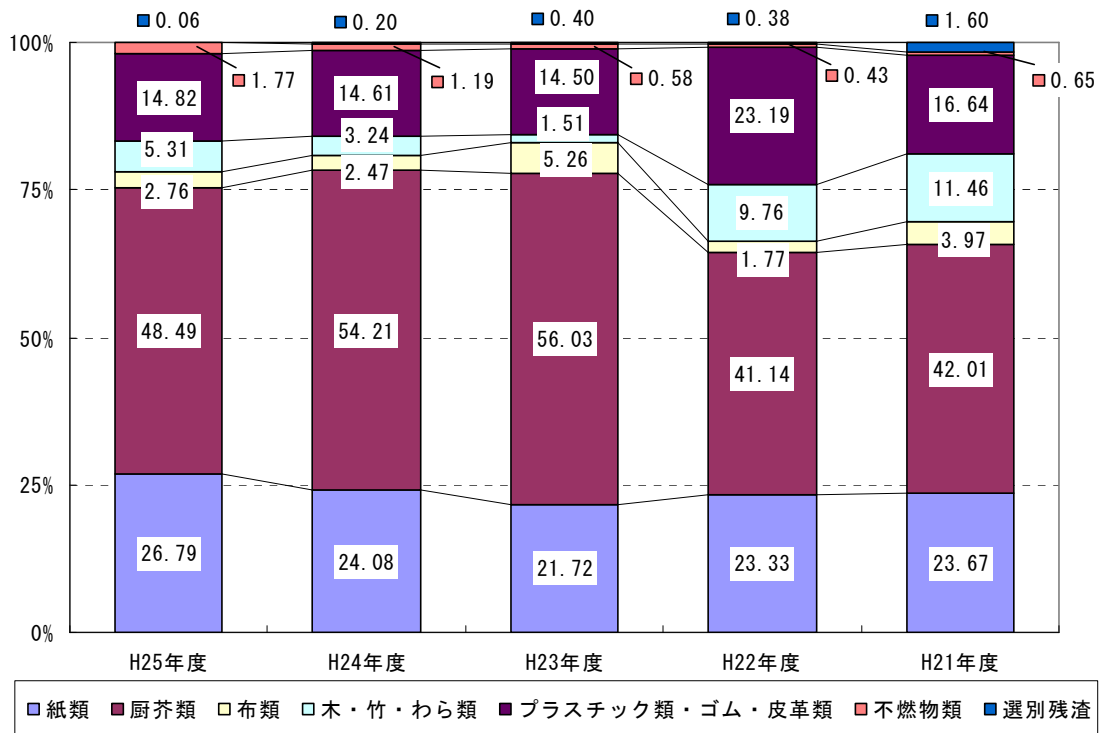


図2-8 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地区：可燃ごみ）

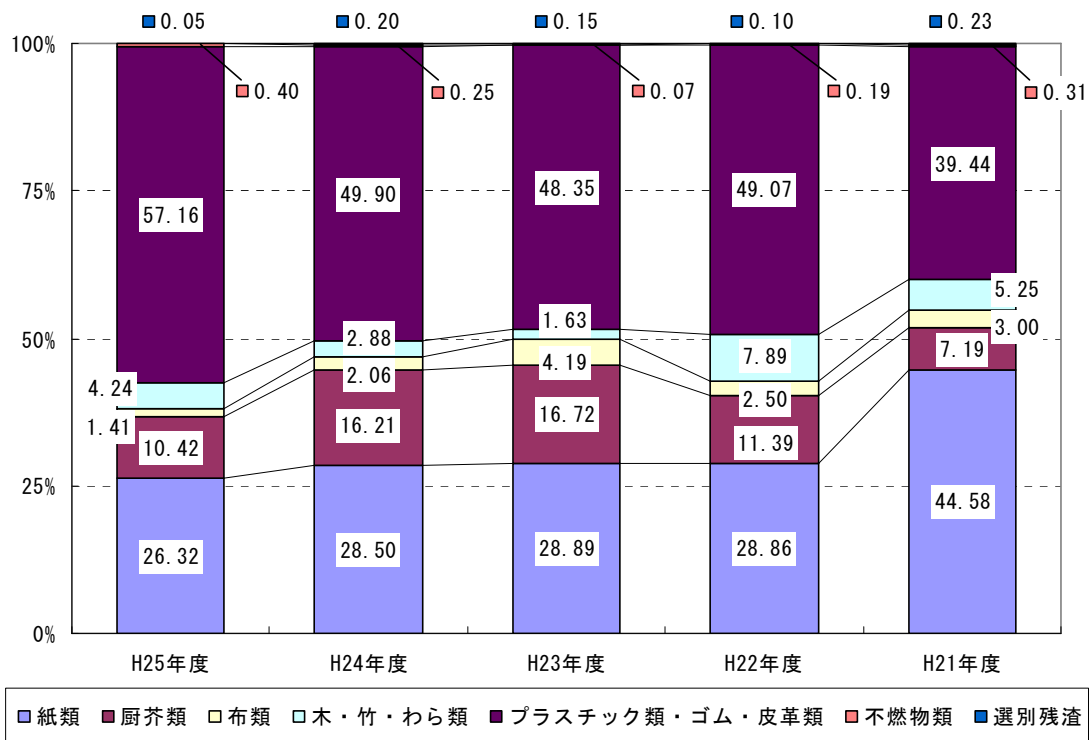


図2-9 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地区：可燃ごみ）

（4）可燃ごみの排出特性の総括

平成 21～25 年度の本市全域（平成 25 年度は西部地区・東部地区も掲載）の構成比を比較した結果を図 2-10～11 に示した。

今回の調査では、平成 24 年度の調査地域と同じ地域の可燃ごみを調査しており、概ね同様の傾向が確認された。

例年、0.5～1.2%の範囲で変動していた「不燃物類」の構成比が若干増加（2.6%）していたため、適正分別の浸透を確認する上で次年度以降も動向を確認していく必要がある。

図 2-12 に可燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、平成 24 年度とほぼ同様であった。

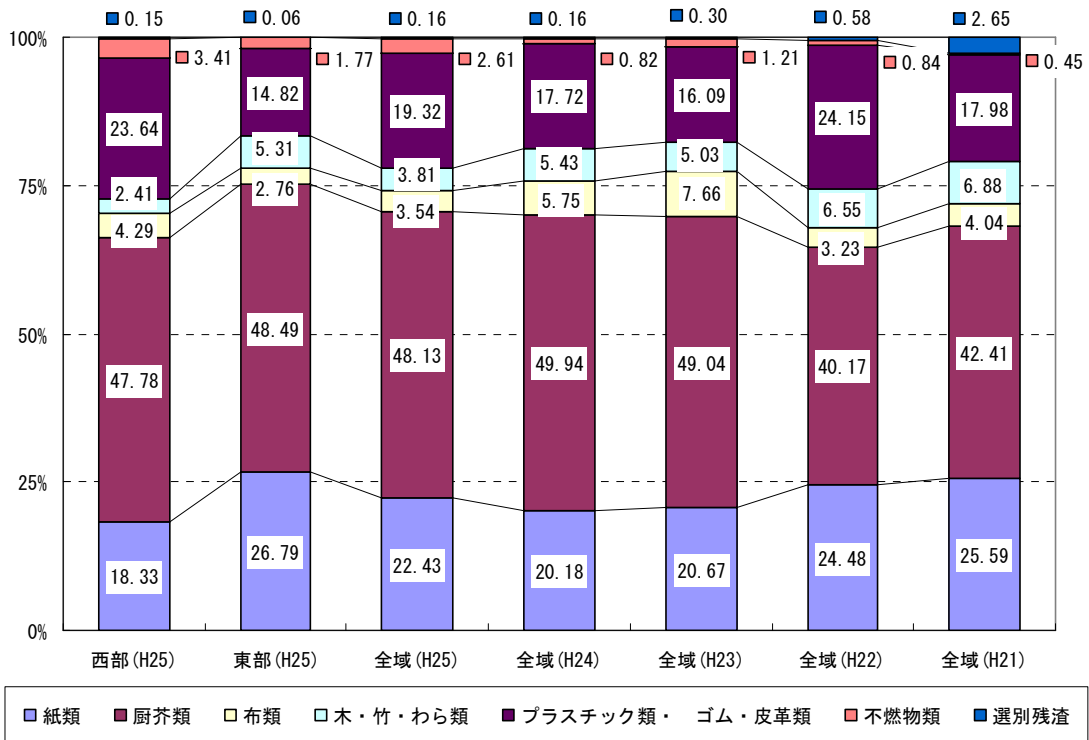


図2-10 大分類組成分析調査結果の比較（可燃ごみ：重量比）

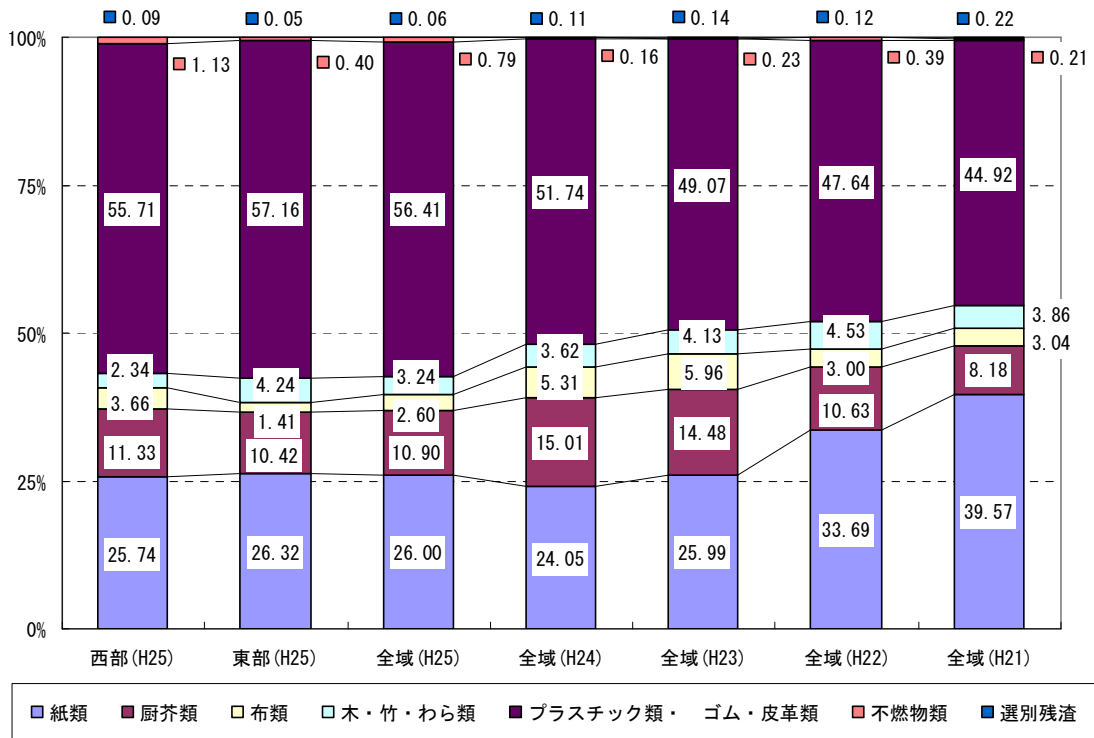


図2-11 大分類組成分析調査結果の比較（可燃ごみ：容積比）

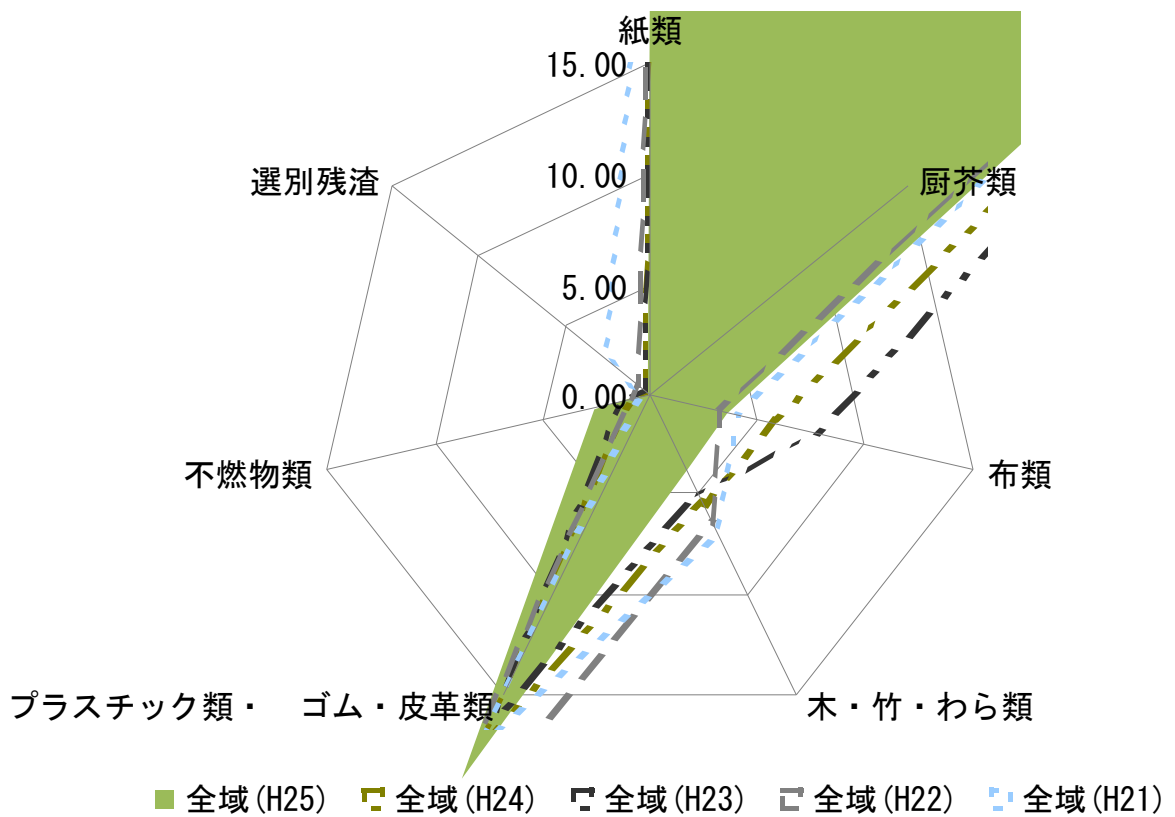
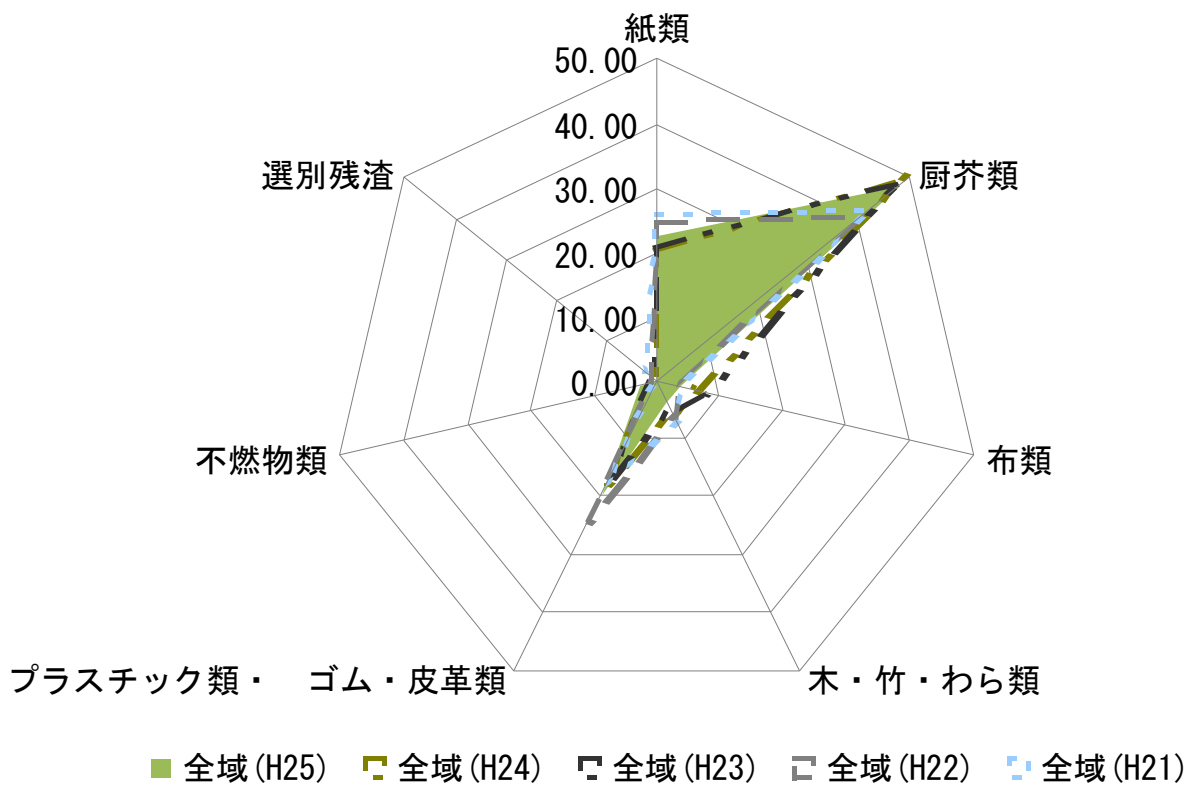


図2-12 可燃ごみの特性比較（重量比：上図-全体、下図-拡大）

2 不燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-7 に示した。本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(11.2%)、「不燃物類」(86.1%)の 2 種類であり、全体の約 97.3%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(8.8%)、ゴム・皮革類(1.1%)が、「不燃物類」ではスチール缶(2.4%)、その他金属類(24.4%)、ワンウェイびん(10.8%)、汚れたワンウェイびん(6.0%)、その他ガラス類(6.1%)、陶磁器類(15.0%)、小型家電製品(11.8%)、複合素材(7.7%)の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は重量比と同様に「プラスチック類・ゴム・皮革類」(36.9%)、「不燃物類」(57.1%)の 2 種類であり、全体の約 94.0%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではレジ袋(8.7%)、容器包装以外のプラスチック類(14.4%)、有料指定袋(11.4%)が、「不燃物類」ではスチール缶(3.3%)、その他金属類(20.3%)、ワンウェイびん(4.2%)、陶磁器類(5.5%)、小型家電製品(6.7%)、複合素材(9.0%)の構成割合が高かった。

図 2-13 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比ともに、「プラスチック類・ゴム・皮革類」と「不燃物類」でほとんどの割合を占めていた。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-8、図 2-14～15 に示した。本年度の結果については、平成 24 年度の調査結果と概ね同様の傾向であったが、重量比における「不燃物類」の構成比と容積比における「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が増加していた。

表2-7 組成分析調査結果 1 (本市全域：不燃ごみ)

項目	全域 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比 (%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	2.89	0.159	0.70	5.14	0.018
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-					
500ml以上	1					
500ml未満	2					
ダンボール	3	0.82	0.016	0.20	0.52	0.051
新聞紙・チラシ	-	0.63	0.059	0.15	1.91	0.011
新聞紙	4	0.10	0.002	0.02	0.06	0.050
再利用した新聞紙	5	0.25	0.029	0.06	0.92	0.009
チラシ	6	0.08	0.0005	0.02	0.02	0.160
再利用したチラシ	7	0.20	0.028	0.05	0.91	0.007
書類・雑誌類	8					
雑紙	-	1.35	0.080	0.33	2.58	0.017
紙箱類	9	1.19	0.074	0.29	2.39	0.016
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13	0.16	0.006	0.04	0.19	0.027
リサイクルできない紙	-	0.09	0.004	0.02	0.13	0.023
紙おむつ以外	14	0.09	0.004	0.02	0.13	0.023
紙おむつ	15					
厨芥類	-	5.98	0.013	1.47	0.42	0.460
食品類	-	5.90	0.012	1.45	0.39	0.492
手付かずの食品	16	5.36	0.011	1.32	0.36	0.487
調理くず・食べ残し	17	0.54	0.001	0.13	0.03	0.540
食品以外	18	0.08	0.001	0.02	0.03	0.080
布類	-	0.52	0.005	0.13	0.16	0.104
リサイクル可能	19					
リサイクル不可	20	0.52	0.005	0.13	0.16	0.104
木・竹・わら類	-	0.14	0.001	0.03	0.04	0.108
剪定枝	21					
草	22					
その他	23	0.14	0.001	0.03	0.04	0.108
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	45.19	1.142	11.15	36.92	0.040
ペットボトル	-	0.42	0.007	0.10	0.22	0.062
リサイクルできるペットボトル	24	0.42	0.007	0.10	0.22	0.062
リサイクルできないペットボトル	25					
レジ袋	-	1.40	0.269	0.35	8.70	0.005
リサイクルできるレジ袋	26	0.69	0.138	0.17	4.46	0.005
リサイクルできないレジ袋	27	0.71	0.131	0.18	4.24	0.005
発泡トレイ	-					
リサイクルできる発泡トレイ	28					
リサイクルできない発泡トレイ	29					
発砲スチロール	-					
リサイクルできる発砲スチロール	28					
リサイクルできない発砲スチロール	29					
その他のプラ製容器包装	-	0.58	0.033	0.14	1.07	0.018
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	30	0.28	0.005	0.07	0.16	0.056
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	31	0.30	0.028	0.07	0.91	0.011
容器包装以外のプラスチック類	32	35.55	0.446	8.77	14.42	0.080
有料指定袋	33	2.62	0.353	0.65	11.41	0.007
ゴム・皮革類	34	4.62	0.034	1.14	1.10	0.136

表2-7 組成分析調査結果2（本市全域：不燃ごみ）

項目	全域（不燃ごみ）					
	重量・容積			重量比・容積比・見掛け比重		
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	348.64	1.765	86.05	57.09	0.197
金属類	-	114.46	0.819	28.25	26.49	0.140
スチール缶	35	9.61	0.102	2.37	3.30	0.094
汚れたスチール缶	36	4.64	0.045	1.15	1.46	0.103
アルミ缶	37	1.13	0.042	0.28	1.36	0.027
汚れたアルミ缶	38	0.24	0.002	0.06	0.06	0.120
その他金属類	39	98.84	0.628	24.39	20.31	0.157
ガラス類	-	92.96	0.289	22.94	9.34	0.322
リターナブルびん	40					
汚れたリターナブルびん	41					
ワンウェイびん	42	43.64	0.129	10.77	4.17	0.338
汚れたワンウェイびん	43	24.45	0.077	6.03	2.49	0.318
その他ガラス類	44	24.87	0.083	6.14	2.68	0.300
その他	-	141.22	0.657	34.86	21.26	0.215
陶磁器類	45	60.72	0.170	14.99	5.50	0.357
小型家電製品	46	47.84	0.207	11.81	6.69	0.231
複合素材	47	31.14	0.277	7.69	8.96	0.112
医療系	48					
乾電池・体温計（水銀入）	49	0.50	0.0004	0.12	0.01	1.250
蛍光灯	50	1.02	0.003	0.25	0.10	0.340
選別残渣	51	1.84	0.007	0.47	0.23	0.263
総合計		405.20	3.0925	100.00	100.00	

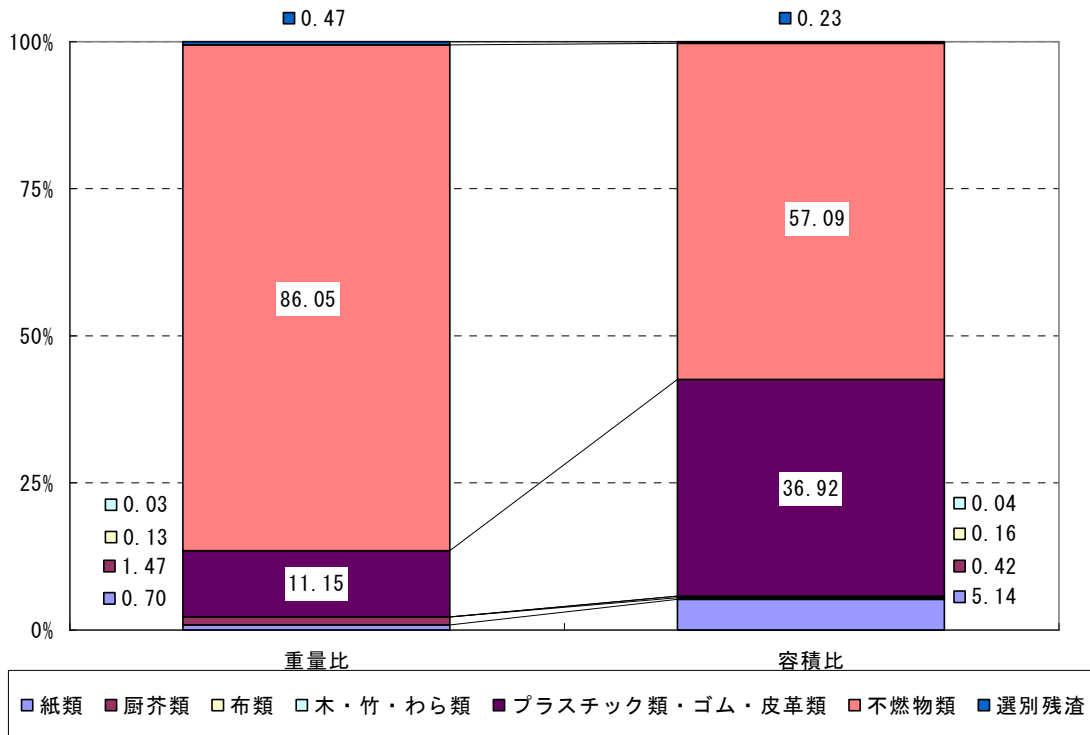


図2-13 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：不燃ごみ）

表2-8 大分類組成調査分析結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

項目	全域-不燃ごみ(重量比)(%)					全域-不燃ごみ(容積比)(%)				
	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度
紙類	0.70	1.03	0.44	0.72	0.62	5.14	6.11	3.71	4.41	3.37
厨芥類	1.47	0.31	1.01	1.79	2.19	0.42	0.03	0.15	0.54	0.46
布類	0.13	0.52	0.94	0.24	0.75	0.16	0.98	3.08	0.29	1.09
木・竹・わら類	0.03	1.79	1.11	0.09	0.73	0.04	2.40	1.74	0.11	1.16
プラスチック類・ ゴム・皮革類	11.15	15.12	15.46	11.02	13.60	36.92	29.14	34.35	24.37	27.97
不燃物類	86.05	80.14	80.97	85.44	79.49	57.09	60.57	56.91	70.01	65.11
選別残渣	0.47	1.09	0.07	0.70	2.62	0.23	0.77	0.06	0.27	0.84
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

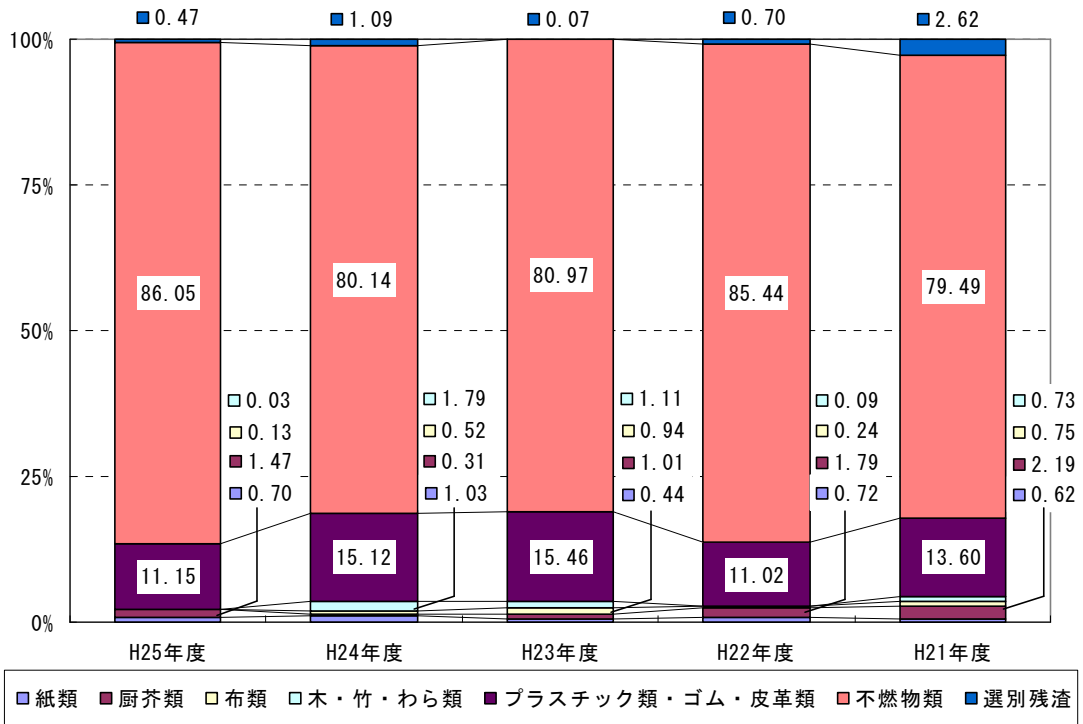


図2-14 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

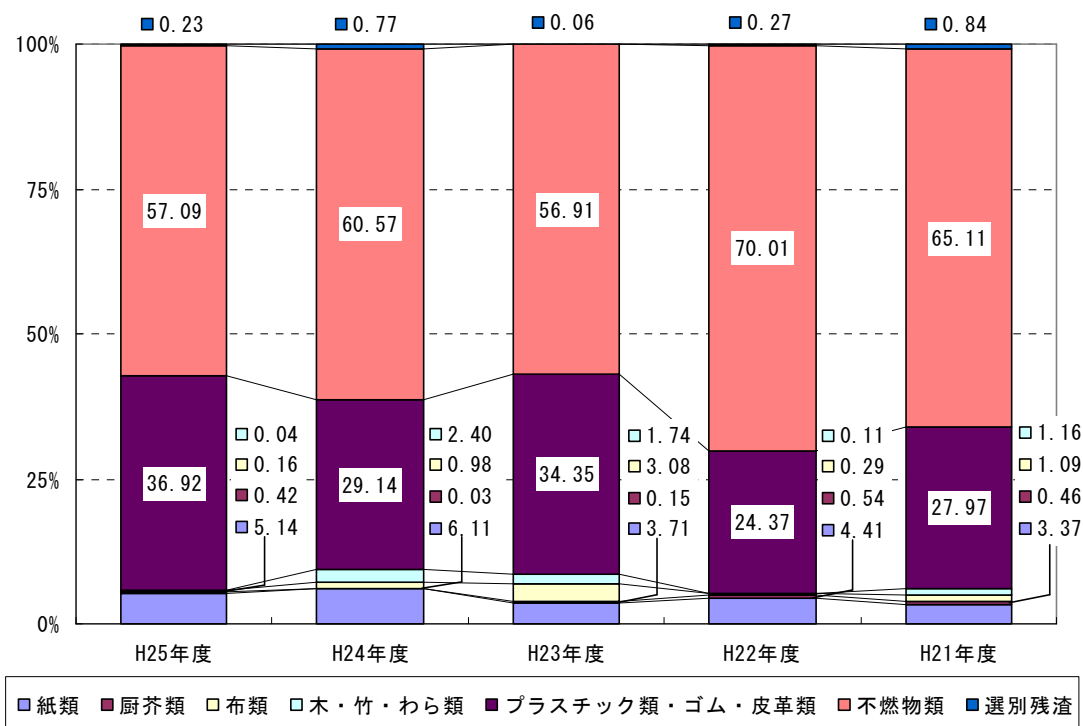


図2-15 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

（2）西部地区

今回実施した西部地区の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-9 に示した。西部地区の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」（14.9%）、「不燃物類」（81.3%）の 2 種類で、全体の 96.2%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類（12.1%）が、「不燃物類」ではその他金属類（19.2%）、ワンウェイびん（4.8%）、汚れたワンウェイびん（6.8%）、その他ガラス類（8.1%）、陶磁器類（14.4%）、小型家電製品（16.9%）複合素材（8.0%）の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は重量比と同様に「プラスチック類・ゴム・皮革類」（38.8%）、「不燃物類」（53.8%）の 2 種類であり、全体の約 92.6%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類（17.5%）、有料指定袋（12.1%）が、「不燃物類」ではその他金属類（19.0%）、陶磁器類（4.9%）、小型家電製品（8.4%）、複合素材（10.2%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された（図 2-16 参照）。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-10、図 2-17～18 に示した。本年度の調査結果は、平成 24 年度の調査結果と概ね同様の傾向であったが、容積比における「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が増加していた。

表2-9 組成分析調査結果 1 (西部地区：不燃ごみ)

項目	西部地区 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	1.36	0.107	0.67	6.22	0.013
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3	0.12	0.007	0.06	0.41	0.017
新聞紙・チラシ	-	0.43	0.056	0.21	3.26	0.008
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.23	0.028	0.11	1.63	0.008
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.20	0.028	0.10	1.63	0.007
書類・雑誌類	8					
雑紙	-	0.77	0.041	0.38	2.38	0.019
紙箱類	9	0.67	0.037	0.33	2.15	0.018
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13	0.10	0.004	0.05	0.23	0.025
リサイクルできない紙	-	0.04	0.003	0.02	0.17	0.013
紙おむつ以外	14	0.04	0.003	0.02	0.17	0.013
紙おむつ	15					
厨芥類	-	4.56	0.010	2.22	0.58	0.456
食品類	-	4.56	0.010	2.22	0.58	0.456
手付かずの食品	16	4.56	0.010	2.22	0.58	0.456
調理くず・食べ残し	17					
食品以外	18					
布類	-	0.44	0.004	0.21	0.23	0.110
リサイクル可能	19					
リサイクル不可	20	0.44	0.004	0.21	0.23	0.110
木・竹・わら類	-	0.12	0.001	0.06	0.06	0.120
剪定枝	21					
草	22					
その他	23	0.12	0.001	0.06	0.06	0.120
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	30.48	0.668	14.88	38.80	0.046
ペットボトル	-	0.38	0.006	0.19	0.35	0.063
リサイクルできるペットボトル	24	0.38	0.006	0.19	0.35	0.063
リサイクルできないペットボトル	25					
レジ袋	-	0.68	0.126	0.34	7.32	0.005
リサイクルできるレジ袋	26	0.32	0.063	0.16	3.66	0.005
リサイクルできないレジ袋	27	0.36	0.063	0.18	3.66	0.006
発泡トレイ	-					
リサイクルできる発泡トレイ	28					
リサイクルできない発泡トレイ	29					
発砲スチロール	-					
リサイクルできる発砲スチロール	30					
リサイクルできない発砲スチロール	31					
その他のプラ製容器包装	-	0.18	0.0020	0.09	0.12	0.090
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	32	0.18	0.0020	0.09	0.12	0.090
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	33					
容器包装以外のプラスチック類	34	24.87	0.301	12.13	17.48	0.083
有料指定袋	35	1.33	0.208	0.65	12.08	0.006
ゴム・皮革類	36	3.04	0.025	1.48	1.45	0.122

表2-9 組成分析調査結果2（西部地区：不燃ごみ）

項目	西部地区（不燃ごみ）					
	重量・容積			重量比・容積比・見掛け比重		
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	166.65	0.927	81.30	53.84	0.180
金属類	-	45.01	0.383	21.95	22.24	0.118
スチール缶	37	3.12	0.026	1.52	1.51	0.120
汚れたスチール缶	38	2.18	0.020	1.06	1.16	0.109
アルミ缶	39	0.29	0.009	0.14	0.52	0.032
汚れたアルミ缶	40	0.08	0.001	0.04	0.06	0.080
その他金属類	41	39.34	0.327	19.19	18.99	0.120
ガラス類	-	40.40	0.138	19.71	8.01	0.293
リターナブルびん	42					
汚れたリターナブルびん	43					
ワンウェイびん	44	9.90	0.037	4.83	2.15	0.268
汚れたワンウェイびん	45	13.93	0.046	6.80	2.67	0.303
その他ガラス類	46	16.57	0.055	8.08	3.19	0.301
その他	-	81.24	0.406	39.64	23.59	0.200
陶磁器類	47	29.51	0.084	14.40	4.88	0.351
小型家電製品	48	34.56	0.144	16.86	8.36	0.240
複合素材	49	16.31	0.176	7.96	10.22	0.093
医療系	50					
乾電池・体温計（水銀入）	51	0.04	0.0001	0.02	0.01	0.400
蛍光灯	52	0.82	0.002	0.40	0.12	0.410
選別残渣	53	1.34	0.005	0.66	0.27	0.268
総合計		204.95	1.7221	100.00	100.00	

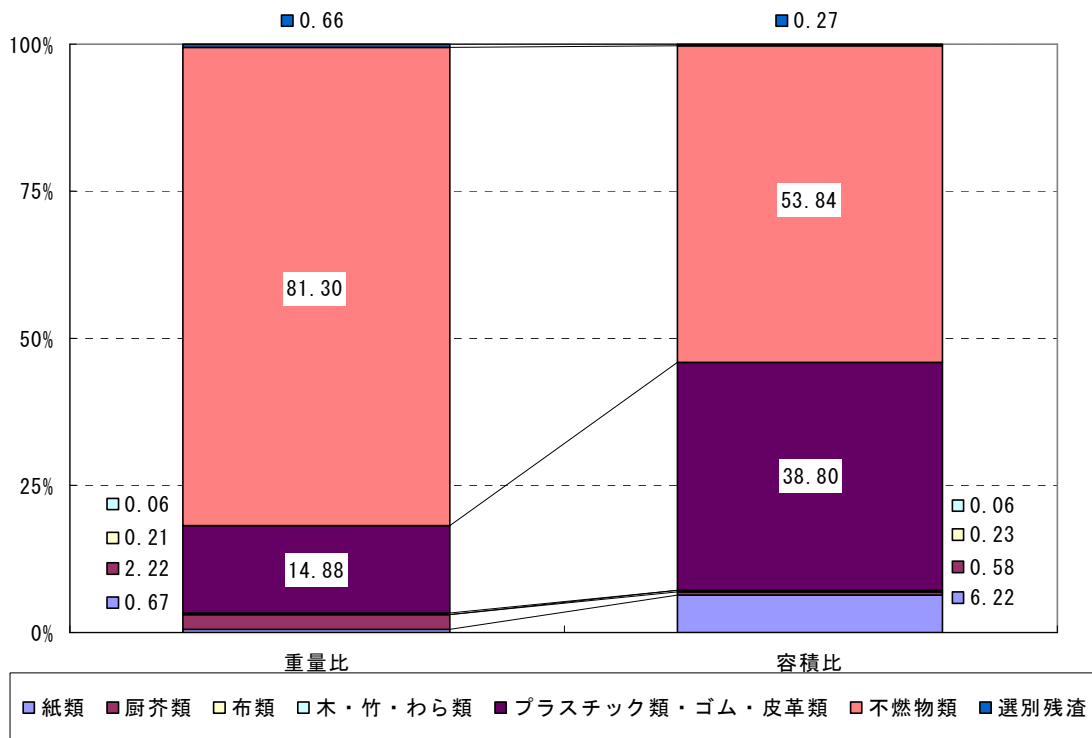


図2-16 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地区：不燃ごみ）

表2-10 大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：不燃ごみ）

分類	西部地区-不燃ごみ(重量比)(%)					西部地区-不燃ごみ(容積比)(%)				
	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度
紙類	0.67	0.75	0.57	0.68	0.92	6.22	6.76	4.86	4.39	4.09
厨芥類	2.22	0.65	1.25	0.59	4.13	0.58	0.07	0.12	0.17	0.82
布類	0.21	1.07	1.08	0.00	1.47	0.23	2.14	3.54	0.04	2.10
木・竹・わら類	0.06	0.36	1.85	0.10	0.67	0.06	1.17	3.24	0.17	0.46
プラスチック類・ ゴム・皮革類	14.88	16.77	13.86	12.13	14.65	38.80	30.93	34.65	24.09	27.59
不燃物類	81.30	78.80	81.31	85.86	76.10	53.84	57.50	53.53	70.96	64.17
選別残渣	0.66	1.60	0.08	0.64	2.06	0.27	1.43	0.06	0.18	0.77
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

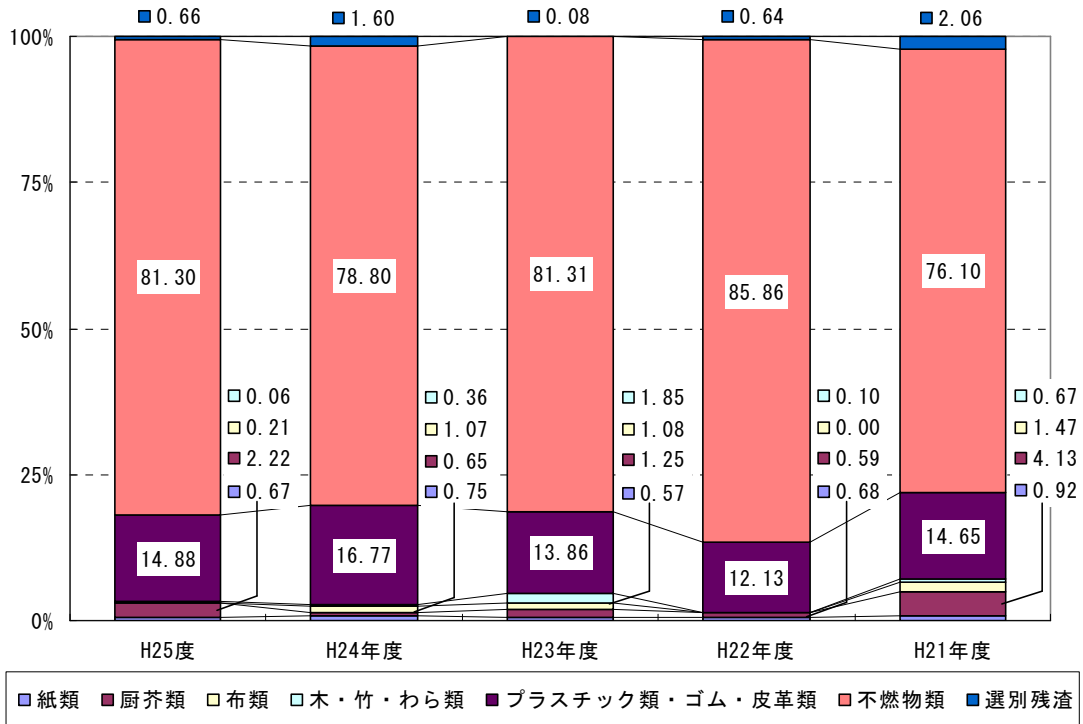


図2-17 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：不燃ごみ）

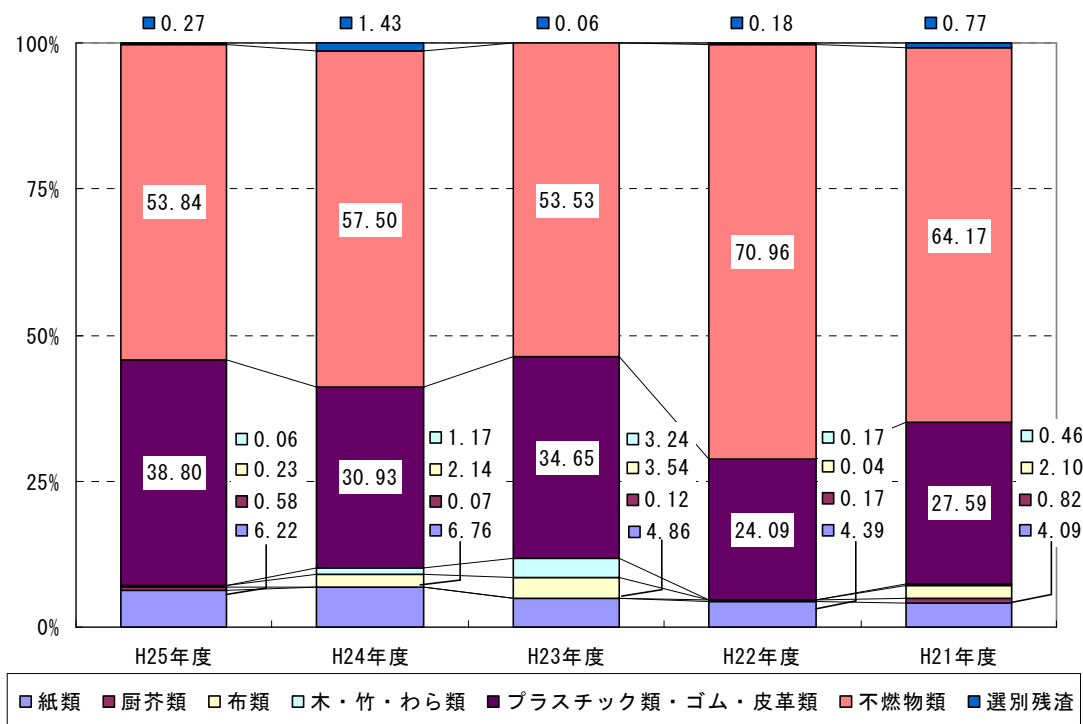


図2-18 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：不燃ごみ）

（3）東部地区

今回実施した東部地区の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-11 に示した。東部地区の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(7.3%)、「不燃物類」(90.9%)の 2 種類であり、全体の約 98.2%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(5.3%)が、「不燃物類」ではその他金属類(29.7%)、ワンウェイびん(16.9%)、汚れたワンウェイびん(5.3%)、その他ガラス類(4.1%)、陶磁器類(15.6%)、小型家電製品(6.6%)複合素材(7.4%)の構成割合が高くなっていた。

次に東部地区の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(34.6%)、「不燃物類」(61.2%)の 2 種類であり、全体の約 95.8%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではレジ袋(10.4%)、容器包装以外のプラスチック類(10.6%)、有料指定袋(10.6%)が、「不燃物類」ではスチール缶(5.6%)、その他金属類(22.0%)、ワンウェイびん(6.7%)、陶磁器類(6.3%)、小型家電製品(4.6%)複合素材(7.4%)の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図 2-19 参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-12、図 2-20～21 に示した。本年度の調査結果については、平成 24 年度の調査結果と比較して、重量比における「不燃物類」の構成比が増加しており、「プラスチック類・ゴム・皮革類」との合計でほとんどの割合を占めていた。

表2-11 組成分析調査結果 1 (東部地区：不燃ごみ)

項目	東部地区 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	1.53	0.052	0.76	3.81	0.029
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3	0.70	0.009	0.35	0.66	0.078
新聞紙・チラシ	-	0.20	0.003	0.10	0.23	0.067
新聞紙	4	0.10	0.002	0.05	0.15	0.050
再利用した新聞紙	5	0.02	0.0005	0.01	0.04	0.040
チラシ	6	0.08	0.0005	0.04	0.04	0.160
再利用したチラシ	7					
書類・雑誌類	8					
雑紙	-	0.58	0.039	0.29	2.85	0.015
紙箱類	9	0.52	0.037	0.26	2.70	0.014
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13	0.06	0.002	0.03	0.15	0.030
リサイクルできない紙	-	0.05	0.001	0.02	0.07	0.050
紙おむつ以外	14	0.05	0.001	0.02	0.07	0.050
紙おむつ	15					
厨芥類	-	1.42	0.003	0.71	0.21	0.473
食品類	-	1.34	0.002	0.67	0.14	0.670
手付かずの食品	16	0.80	0.001	0.40	0.07	0.800
調理くず・食べ残し	17	0.54	0.001	0.27	0.07	0.540
食品以外	18	0.08	0.001	0.04	0.07	0.080
布類	-	0.08	0.001	0.04	0.07	0.080
リサイクル可能	19					
リサイクル不可	20	0.08	0.001	0.04	0.07	0.080
木・竹・わら類	-	0.02	0.0003	0.01	0.02	0.067
剪定枝	21					
草	22					
その他	23	0.02	0.0003	0.01	0.02	0.067
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	14.71	0.474	7.33	34.57	0.031
ペットボトル	-	0.04	0.0008	0.02	0.06	0.050
リサイクルできるペットボトル	24	0.04	0.0008	0.02	0.06	0.050
リサイクルできないペットボトル	25					
レジ袋	-	0.72	0.143	0.35	10.43	0.005
リサイクルできるレジ袋	26	0.37	0.075	0.18	5.47	0.005
リサイクルできないレジ袋	27	0.35	0.068	0.17	4.96	0.005
発泡トレイ	-					
リサイクルできる発泡トレイ	28					
リサイクルできない発泡トレイ	29					
発砲スチロール	-					
リサイクルできる発砲スチロール	30					
リサイクルできない発砲スチロール	31					
その他のプラ製容器包装	-	0.40	0.031	0.20	2.26	0.013
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	32	0.10	0.003	0.05	0.22	0.033
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	33	0.30	0.028	0.15	2.04	0.011
容器包装以外のプラスチック類	34	10.68	0.145	5.33	10.58	0.074
有料指定袋	35	1.29	0.145	0.64	10.58	0.009
ゴム・皮革類	36	1.58	0.009	0.79	0.66	0.176

表2-11 組成分析調査結果 2 (東部地区：不燃ごみ)

項目	東部地区 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見掛け比重			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比 (%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	181.99	0.838	90.88	61.16	0.217
金属類	-	69.45	0.436	34.68	31.81	0.159
スチール缶	37	6.49	0.076	3.24	5.55	0.085
汚れたスチール缶	38	2.46	0.025	1.23	1.82	0.098
アルミ缶	39	0.84	0.033	0.42	2.41	0.025
汚れたアルミ缶	40	0.16	0.001	0.08	0.07	0.160
その他金属類	41	59.50	0.301	29.71	21.96	0.198
ガラス類	-	52.56	0.151	26.24	11.01	0.348
リターナブルびん	42					
汚れたリターナブルびん	43					
ワンウェイびん	44	33.74	0.092	16.85	6.71	0.367
汚れたワンウェイびん	45	10.52	0.031	5.25	2.26	0.339
その他ガラス類	46	8.30	0.028	4.14	2.04	0.296
その他	-	59.98	0.251	29.96	18.34	0.239
陶磁器類	47	31.21	0.086	15.59	6.28	0.363
小型家電製品	48	13.28	0.063	6.63	4.60	0.211
複合素材	49	14.83	0.101	7.41	7.37	0.147
医療系	50					
乾電池・体温計 (水銀入)	51	0.46	0.0003	0.23	0.02	1.533
蛍光灯	52	0.20	0.001	0.10	0.07	0.200
選別残渣	53	0.50	0.002	0.27	0.16	0.250
総合計		200.25	1.3704	100.00	100.00	

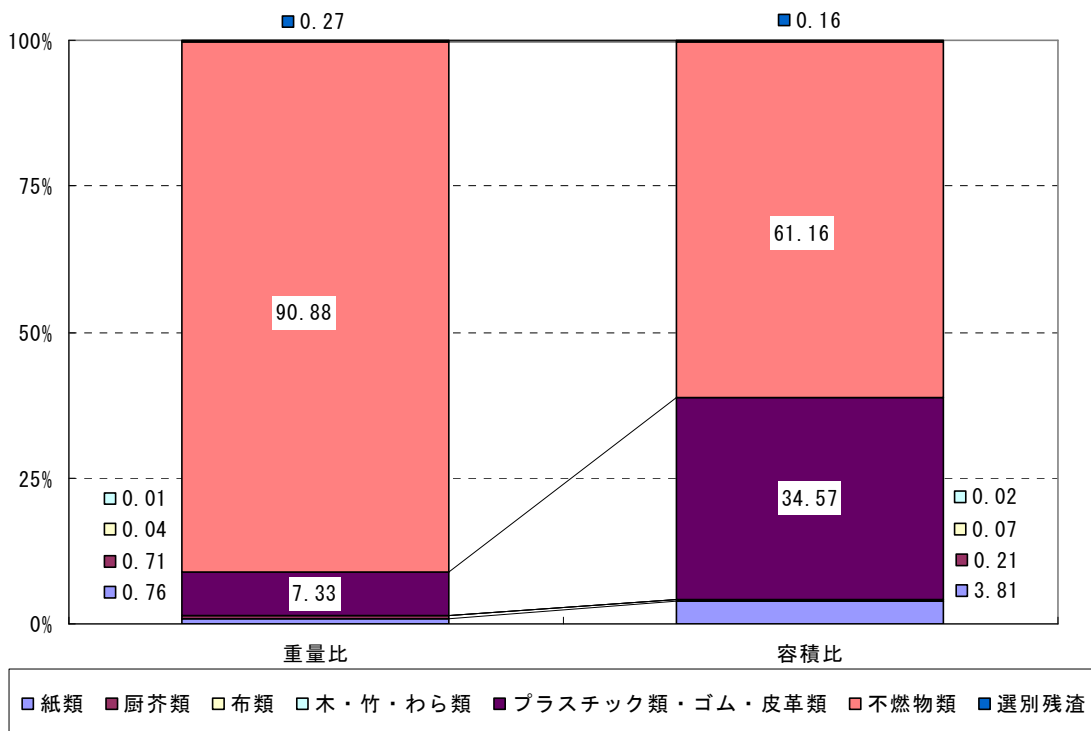


図2-19 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較 (東部地区：不燃ごみ)

表2-12 大分類組成分析調査結果の比較（東部地区：不燃ごみ）

分類	東部地区-不燃ごみ(重量比)(%)					東部地区-不燃ごみ(容積比)(%)				
	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H21年度
紙類	0.76	1.29	0.31	0.75	0.32	3.81	5.55	2.56	4.42	2.60
厨芥類	0.71	0.00	0.76	2.95	0.22	0.21	0.00	0.18	0.98	0.09
布類	0.04	0.00	0.80	0.43	0.03	0.07	0.00	2.62	0.59	0.05
木・竹・わら類	0.01	3.12	0.37	0.07	0.79	0.02	3.42	0.24	0.05	1.89
プラスチック類・ ゴム・皮革類	7.33	13.62	17.04	9.95	12.54	34.57	27.64	34.06	24.69	28.36
不燃物類	90.88	81.40	80.64	85.03	82.92	61.16	63.18	60.27	68.89	66.06
選別残渣	0.27	0.57	0.08	0.82	3.18	0.16	0.21	0.07	0.38	0.95
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

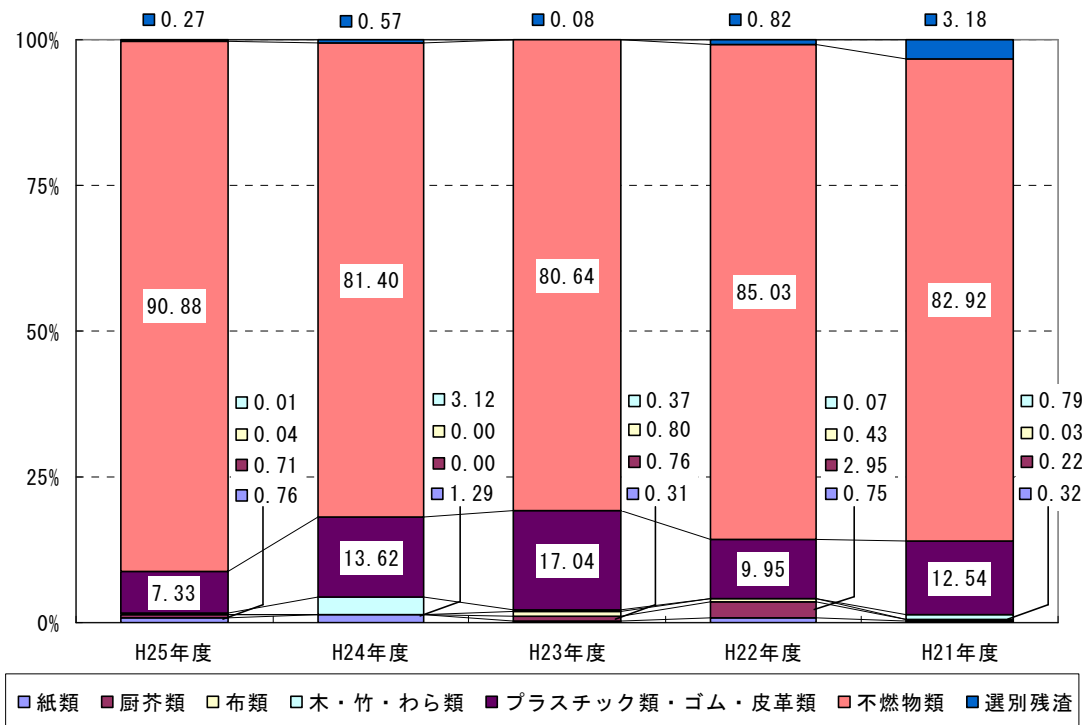


図2-20 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地区：不燃ごみ）

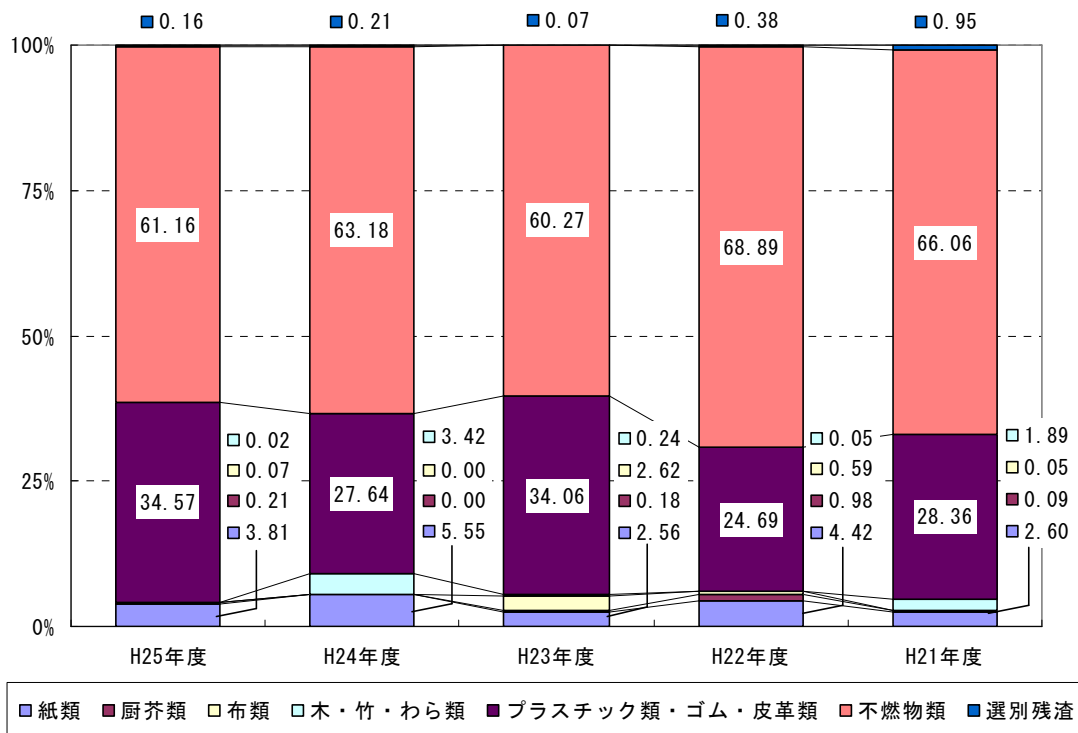


図2-21 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地区：不燃ごみ）

（４）不燃ごみの排出特性の総括

平成 21～25 年度の本市全域（平成 25 年度は西部地区・東部地区も掲載）の構成比を比較した結果を図 2-22～23 に示した。

今回の調査では、平成 24 年度の調査地域と同じ地域の不燃ごみを調査しており、概ね同様の傾向であったが、重量比における「不燃物類」の構成比が増加していた。

図 2-24 に不燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、平成 24 年度とほぼ同様であった。

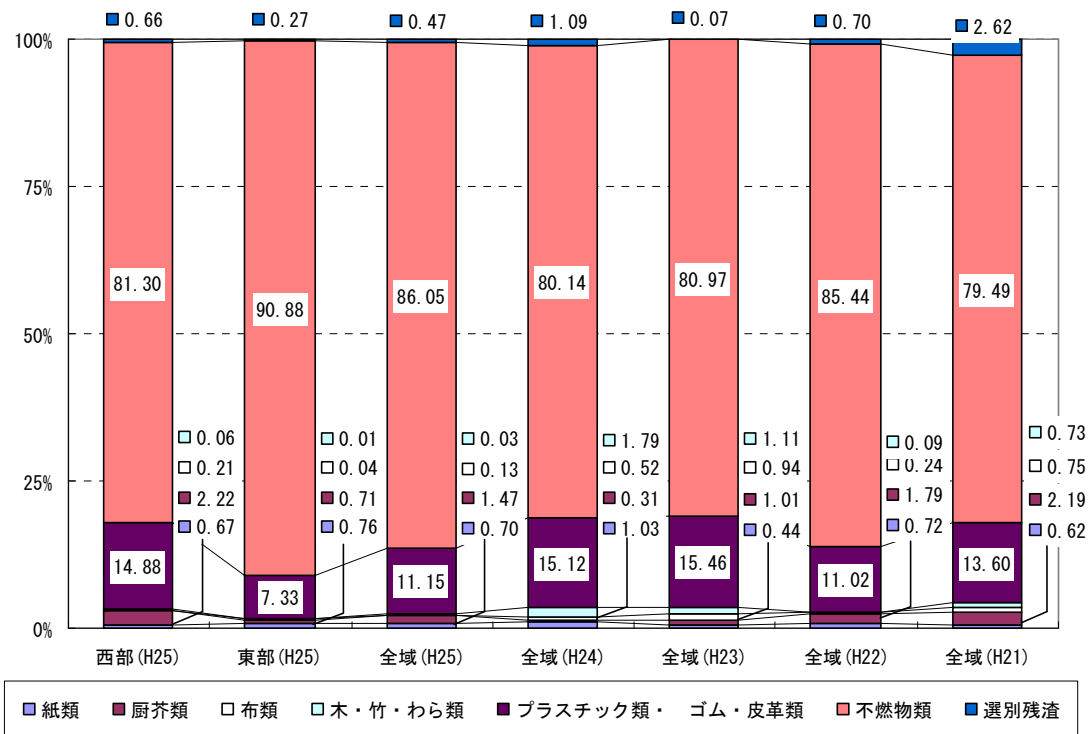


図2-22 大分類組成分析調査結果の比較（重量比：不燃ごみ）

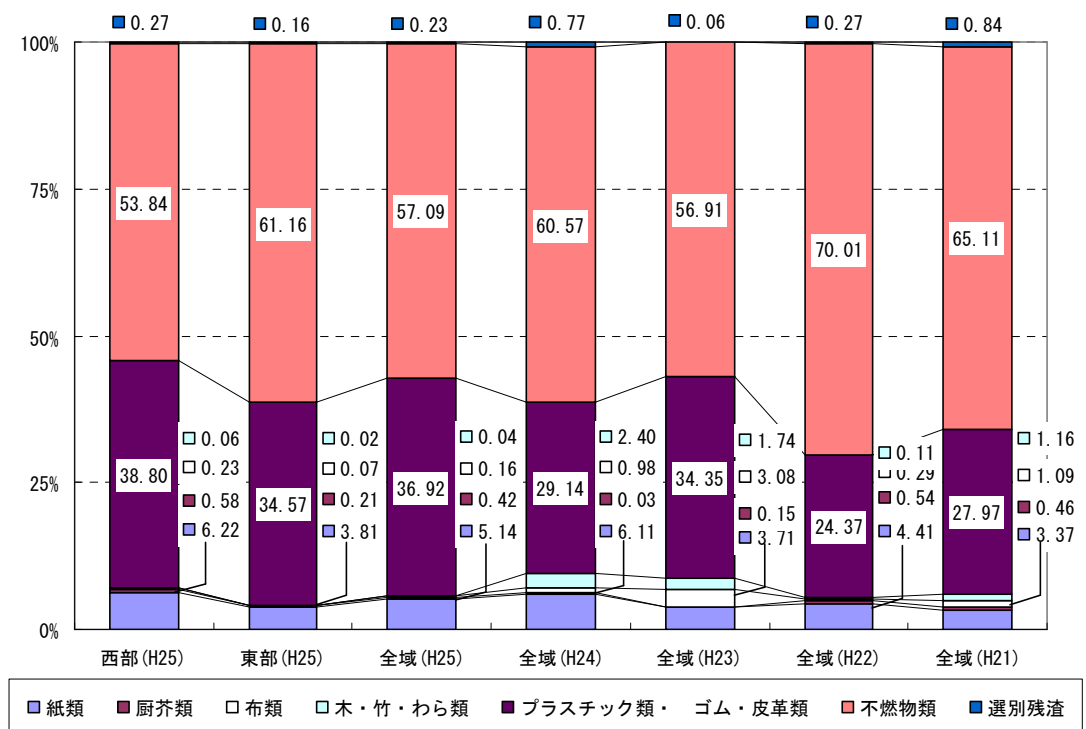


図2-23 大分類組成分析調査結果の比較（容積比：不燃ごみ）

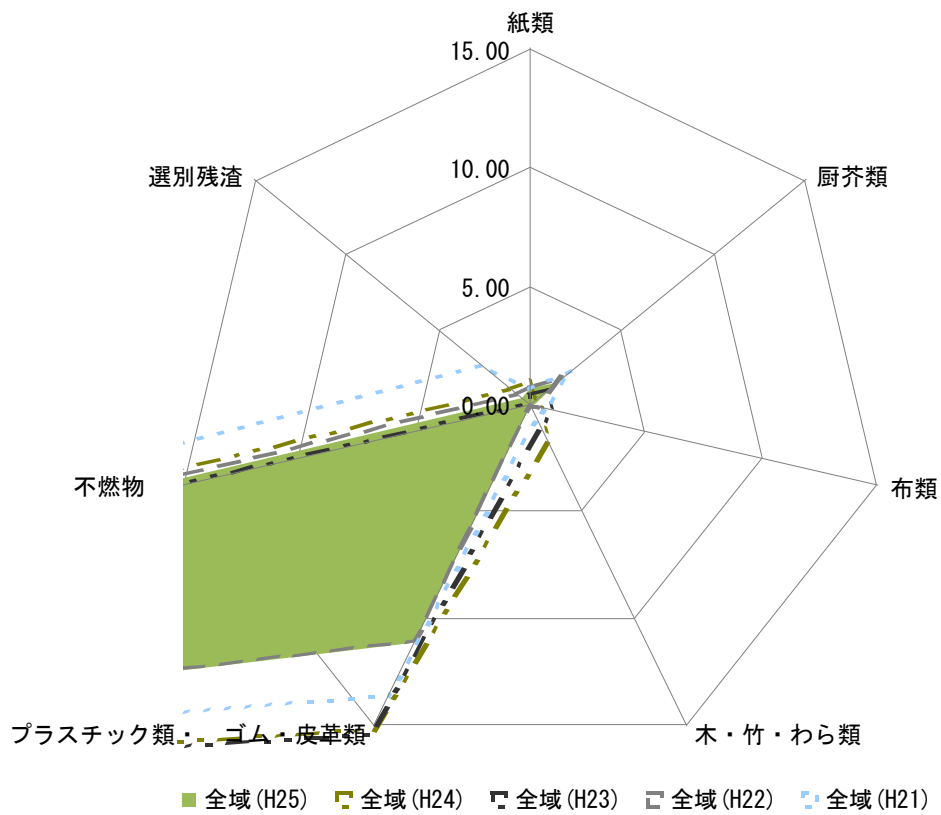
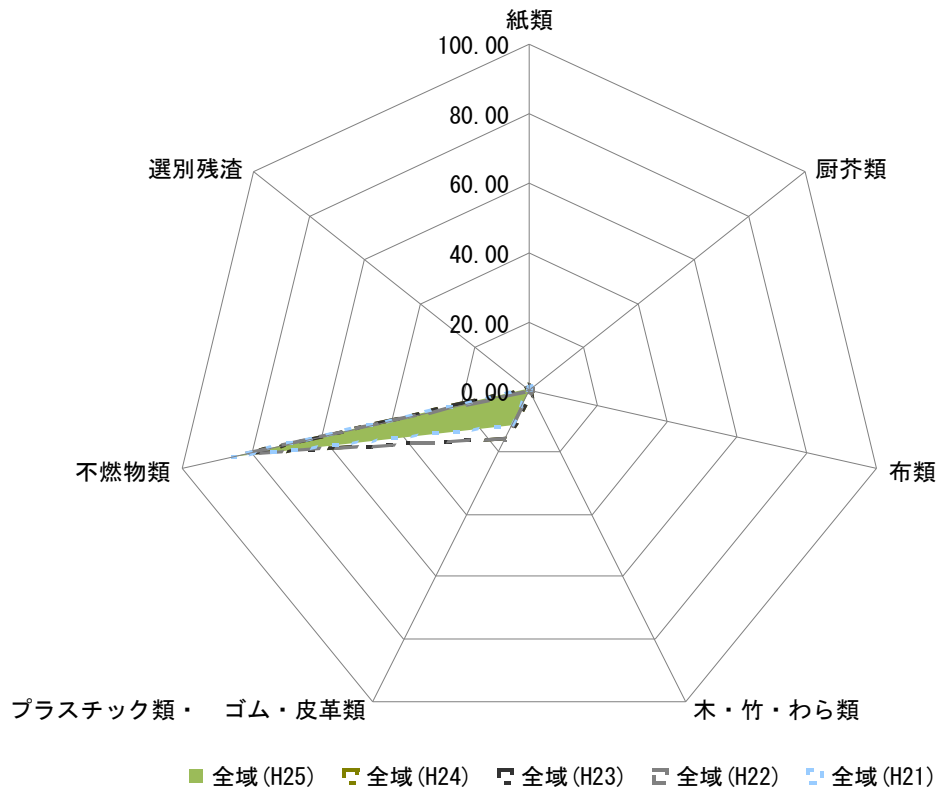


図2-24 不燃ごみの特性比較（重量比：上図-全体、下図-拡大）

第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみの適正分別の状況把握を行っている。

1 可燃ごみの状況把握

西部地区、東部地区及び本市全域の可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表2-13、図2-25に示した。

可燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地区で約84.8%（H24：87.0%）、東部地区で約89.4%（H24：91.0%）となっており、本市全域で見ると約87.1%（H24：88.9%）と、昨年度の適正分別に関する構成比と同程度ではあるものの、若干、減少している傾向が確認された。

可燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約10.4%（H24：10.3%）であり、昨年度の構成比と同程度であった。混入している資源化物としては、図2-26に示すようにチラシ、紙箱類、その他の雑紙、布類等の構成比が高かった。混入していた不燃ごみは、本市全域で約2.6%（H24：0.8%）と若干の増加が確認された。

表2-13 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地区(%)	東部地区(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	11.77	8.90	10.35
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.40	0.54	0.47
ダンボール	0.66	1.05	0.85
新聞紙	0.80	1.33	1.06
チラシ	1.41	1.34	1.37
書籍・雑誌類	1.79	0.34	1.08
紙箱類	2.09	1.91	2.01
紙包装類	0.02	0.03	0.02
OA用紙	0.16	0.04	0.10
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	1.55	1.30	1.42
リサイクルできる布類	2.15	0.53	1.36
リサイクルできるペットボトル	0.57	0.38	0.47
リサイクルできる発泡トレイ	0.17	0.05	0.11
スチール缶	0.00	0.04	0.02
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池・体温計（水銀入）	0.00	0.02	0.01
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	3.41	1.71	2.58
適正な分別（可燃ごみ）	84.82	89.39	87.07
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

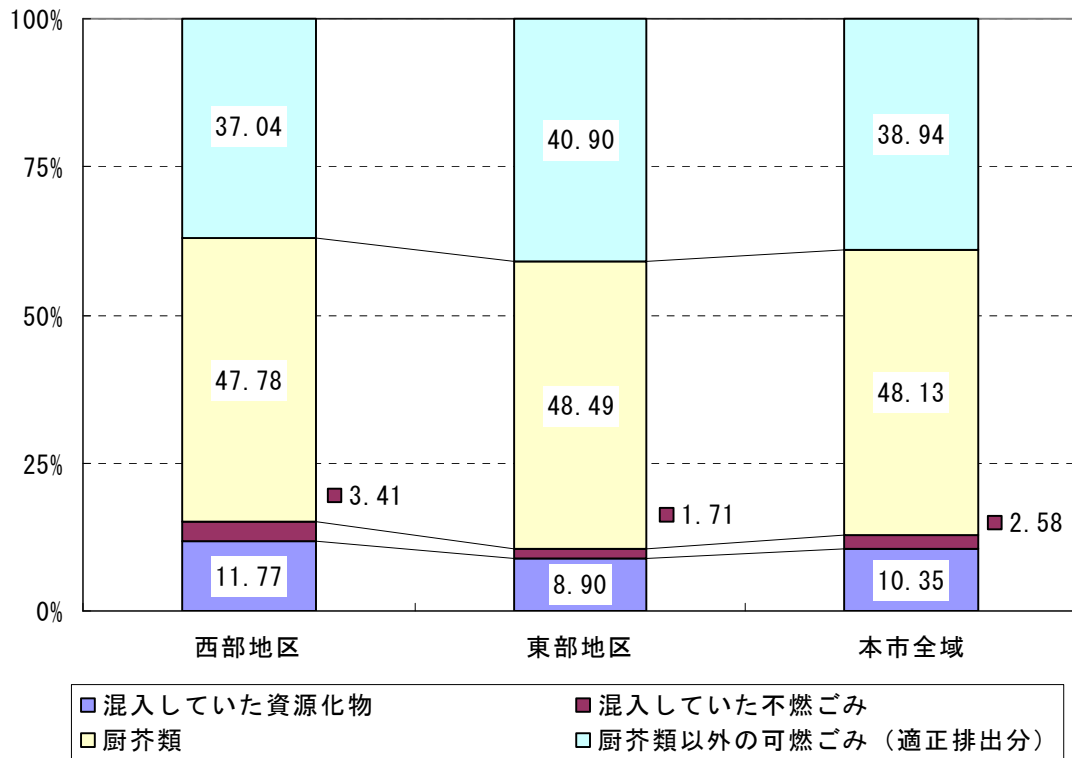


図2-25 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

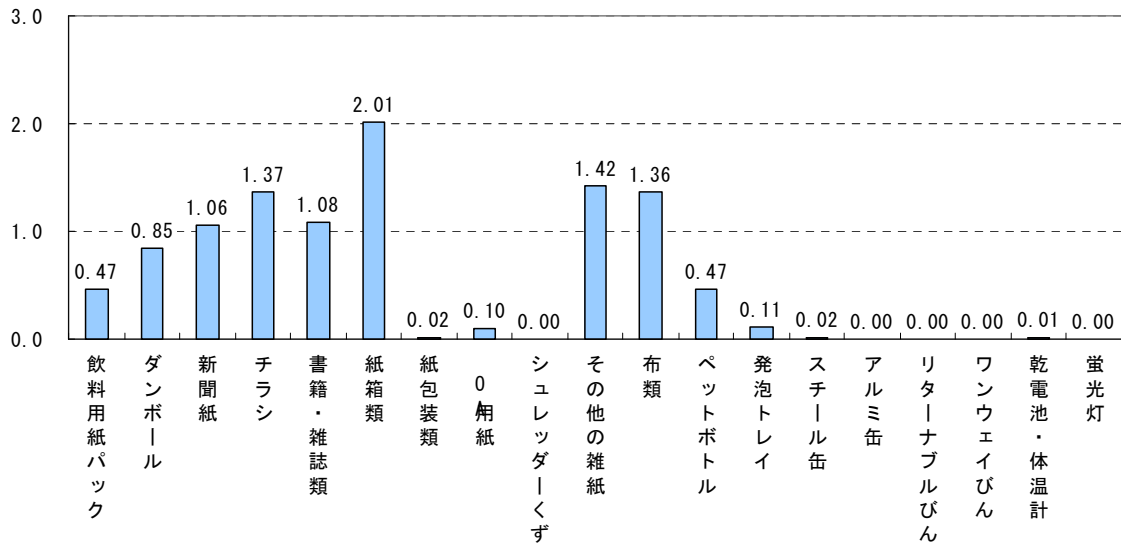


図2-26 可燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）

2 不燃ごみの状況把握

西部地区、東部地区及び本市全域の不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表 2-14、図 2-27 に示した。

不燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地区で約 74.4% (H24: 71.1%)、東部地区では約 70.0% (H24: 65.7%) となっており、本市全域で見ると約 72.3% (H24: 68.3%) と、適正分別の構成比は改善傾向となっていた。

不燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約 14.5% (H24: 12.6%) であり、昨年度の構成比と比較して増加していた。混入している資源化物としては、図 2-28 に示すようにスチール缶、ワンウェイびんが主体であった。混入していた可燃ごみは、本市全域で約 13.3% (H24: 19.2%) と改善傾向が確認された。

表2-14 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地区 (%)	東部地区 (%)	本市全域 (%)
混入していた資源化物	7.54	21.59	14.46
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.06	0.35	0.20
新聞紙	0.00	0.05	0.02
チラシ	0.00	0.04	0.02
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.33	0.26	0.29
紙包装類	0.00	0.00	0.00
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.05	0.03	0.04
リサイクルできる布類	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるペットボトル	0.19	0.02	0.10
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
スチール缶	1.52	3.24	2.37
アルミ缶	0.14	0.42	0.28
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	4.83	16.85	10.77
乾電池・体温計（水銀入）	0.02	0.23	0.12
蛍光灯	0.40	0.10	0.25
混入していた可燃ごみ	18.07	8.37	13.28
適正な分別（不燃ごみ）	74.39	70.04	72.26
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

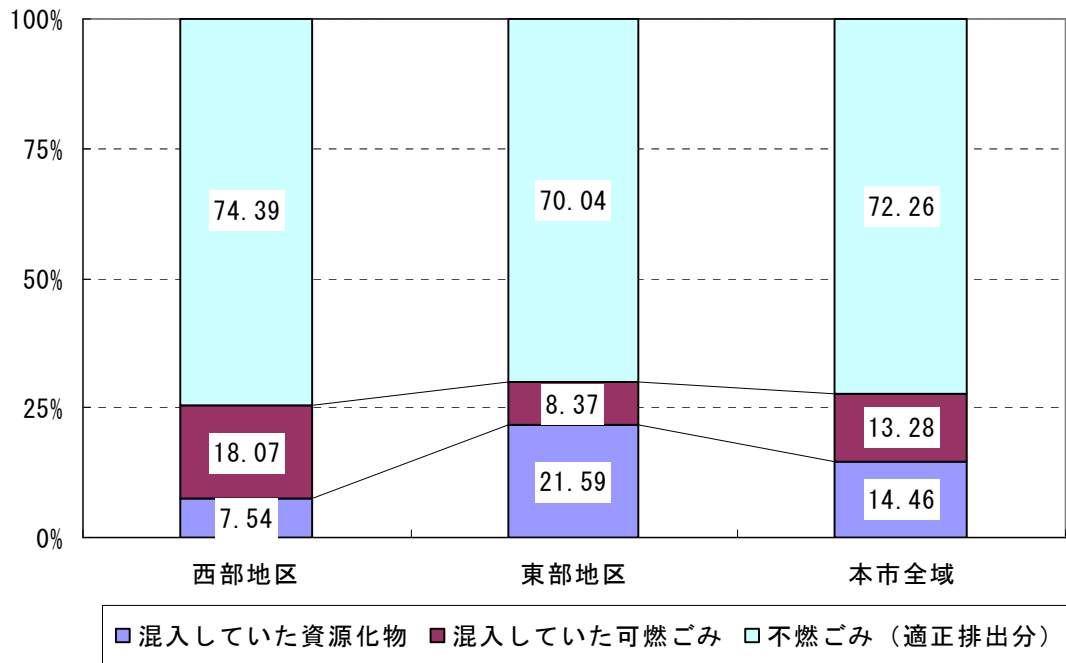


図2-27 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況 (重量比)

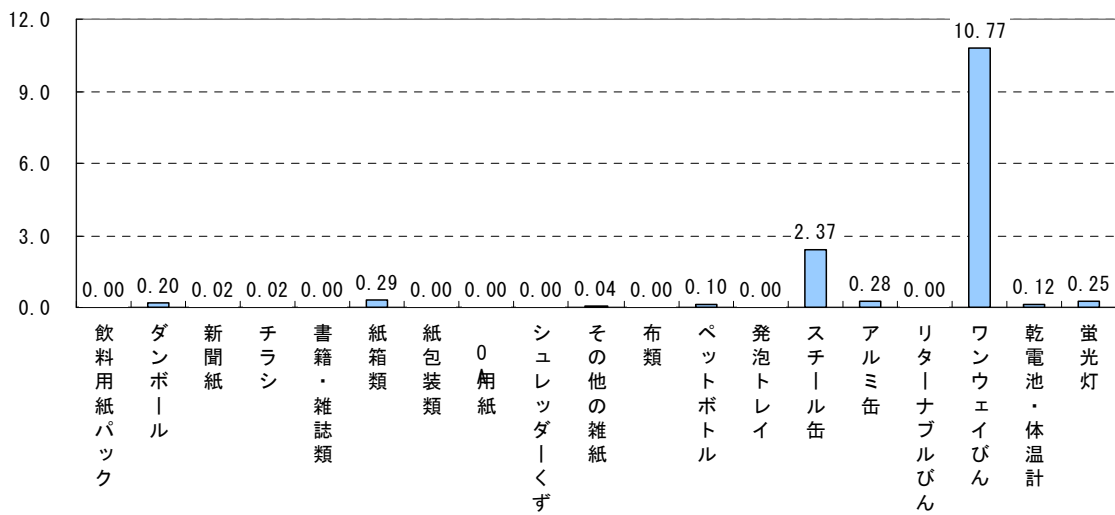


図2-28 不燃ごみに混入していた資源化物の状況 (重量比)

3 小型家電製品の混入状況

昨年同様に混入していた小型家電製品を個別に調査した。小型家電製品の混入状況を表2-15に示した。今回の調査では、調査全体で117個の小型家電製品が混入していた。レアメタル回収の可能性の観点から、将来的に本品目に対する資源化のあり方を検討していく必要があると考えられる。

表2-15 小型家電製品の混入状況（1）

品目	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
	西部地区	東部地区	西部地区	東部地区	
PC（ノートブック型）					0
携帯電話					0
PC（デスクトップ型）					0
デジタルカメラ				2	2
据置型ゲーム機				1	1
ビデオカメラ（放送用を除く）					0
デジタルオーディオプレーヤ（フラッシュメモリ）					0
公衆用PHS端末					0
デッキを除くテープレコーダ					0
携帯型ゲーム機			2	1	3
電子辞書					0
デジタルオーディオプレーヤ（HDD）					0
CDプレーヤ					0
MDプレーヤ					0
ICレコーダ					0
ETC車載ユニット					0
VICSユニット					0
フォトプリンター					0
カメラ					0
ハンドヘルドゲーム（ミニ電子ゲーム）					0
プラグ・ジャック			11	4	15
補聴器					0
地上デジタルチューナ					0
リモコン		2	2	6	10
キーボードユニット					0
携帯用電気ランプ					0
ゲーム用コントローラ					0
カーDVD					0
家庭用吸入器					0
BDレコーダ/プレーヤ					0
CS専用アンテナ					0
ラジオ放送用受信機					0
電動歯ブラシ					0
ACアダプタ	1		5	5	11
電話機					0
ハイテク系トレンドトイ					0
電子体温計					0
電卓			1		1
カーMD					0
ビデオプロジェクション					0
ケーブルテレビ用STB					0
カーチューナ					0
スピーカシステム					0
カーカラーテレビ					0
家庭用磁気・熱療法治療器					0
カーナビゲーションシステム					0
ジュースミキサー				1	1
カーラジオ					0

表2-15 小型家電製品の混入状況（2）

品目	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
	西部地区	東部地区	西部地区	東部地区	
カーステレオ					0
電磁調理器卓上型			2		2
CSデジタルチューナ					0
電子血圧計			1		1
BS/CSアンテナ					0
ヘッドホン及びイヤホン	1		6	1	8
カーアンプ					0
家庭用医療用物質生成器			1		1
家庭用生ゴミ処理機					0
ステレオセット					0
電気かみそり			3		3
電気ストーブ					0
電気のかぎり					0
電気ギター					0
コーヒーマーカー			1		1
プロジェクタ					0
ヘアドライヤー					0
加湿器					0
電子キーボード					0
アンプ					0
家庭用電気・光線治療器				1	1
カーCDプレーヤ					0
電気アイロン					0
DVD-ビデオ					0
電気ドリル（電池式も含む）					0
除湿機					0
その他の電動工具					0
トースター					0
ホットプレート					0
ファクシミリ			1		1
食器洗い乾燥機					0
電気カーペット					0
扇風機					0
空気清浄機					0
家庭用ミシン					0
ジャーポット			1	2	3
時計		1	5	5	11
電気掃除機	1				1
ビデオテープレコーダ（セット）					0
家庭用マッサージ・治療浴用機器及び装置			1		1
換気扇					0
カースピーカ					0
炊飯器			2	1	3
モニター（電子計算機用）					0
プリンタ	1				1
電子レンジ					0
電球			11	17	28
電機照明器具			2	5	7

第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみに混入する容器包装リサイクル法対象廃棄物の混入状況を把握している。

1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地区、東部地区及び本市全域の可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-16、図 2-29 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 15.0%と平成 24 年度の調査結果（14.4%）と構成比が概ね同様であることが確認された。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、発泡トレイ、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が可燃ごみに占める割合は、本市全域で約 4.5%（表 2-16 にて資源化対象に“○”のあるものの合計）であった。

表2-16 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地区(%)	東部地区(%)	本市全域(%)	資源化対象
飲料用紙パック（アルミ不使用）	0.40	0.54	0.47	○
ダンボール	0.66	1.05	0.85	○
紙箱類	2.09	1.91	2.01	○
紙包装類	0.02	0.03	0.02	○
ペットボトル	0.88	0.41	0.64	○
レジ袋	1.47	1.21	1.34	×
発泡トレイ	0.51	0.26	0.39	○
発泡スチロール	0.005	0.13	0.06	×
その他のプラ製容器包装	10.49	7.57	9.07	×
スチール缶	0.02	0.04	0.03	○
アルミ缶	0.00	0.00	0.00	○
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00	○
ワンウェイびん	0.10	0.15	0.12	○
合計	16.65	13.30	15.00	-

※ 上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示した各種データを採用している。

※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。

※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ その他プラ製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

※ 缶類は汚れた缶類を含む。

※ びん類は汚れたびん類を含む。

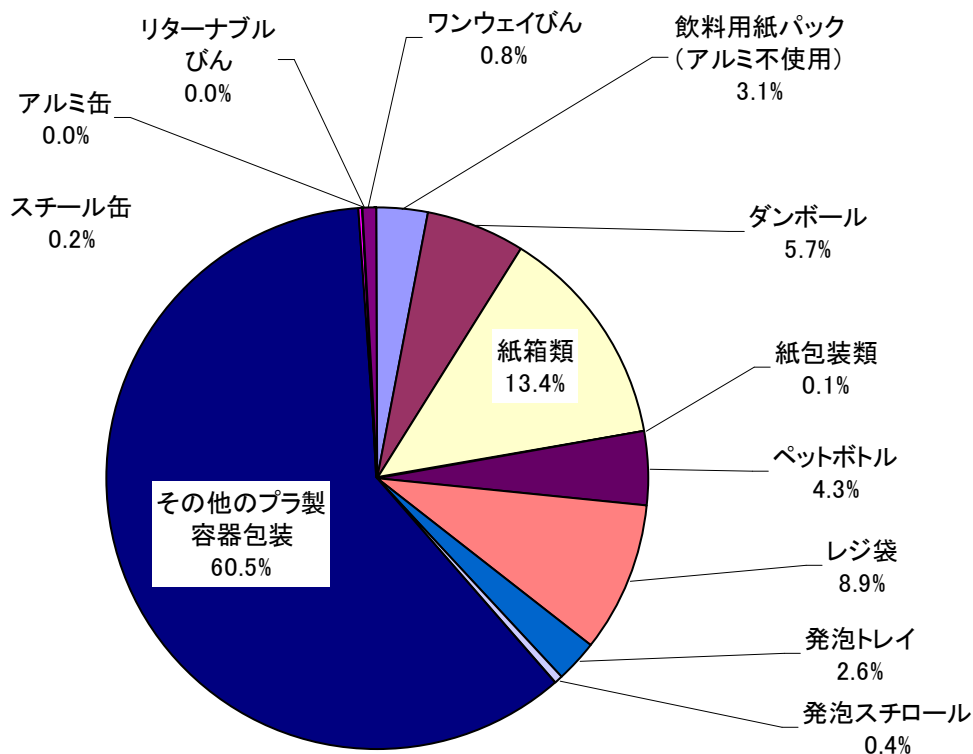


図2-29 可燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（本市全域：重量比）

2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地区、東部地区及び本市全域の不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-17、図 2-30 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 21.7%（H24：15.7%）となっており、平成 24 年度と比較して増加していた。

本市が資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、発泡トレイ、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が不燃ごみに占める割合は、本市全域で約 21.3%（表 2-17 参照にて対象物に“○”のあるものの合計）であった。

容器包装廃棄物の構成割合としては、スチール缶、ワンウェイびんの構成比（図 2-30 参照）が高くなっているため、こうした品目の分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

表2-17 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地区(%)	東部地区(%)	本市全域(%)	資源化対象
飲料用紙パック（アルミ不使用）	0.00	0.00	0.00	○
ダンボール	0.06	0.35	0.20	○
紙箱類	0.33	0.26	0.29	○
紙包装類	0.00	0.00	0.00	○
ペットボトル	0.19	0.02	0.10	○
レジ袋	0.34	0.35	0.35	×
発泡トレイ	0.00	0.00	0.00	○
発泡スチロール	0.00	0.00	0.00	×
その他のプラ製容器包装	0.09	0.20	0.14	×
スチール缶	2.58	4.47	3.52	○
アルミ缶	0.18	0.50	0.34	○
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00	○
ワンウェイびん	11.63	22.10	16.80	○
合計	15.40	28.25	21.74	-

- ※ 上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示した各種データを採用している。
- ※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ その他プラ製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 缶類は汚れた缶類を含む。
- ※ びん類は汚れたびん類を含む。

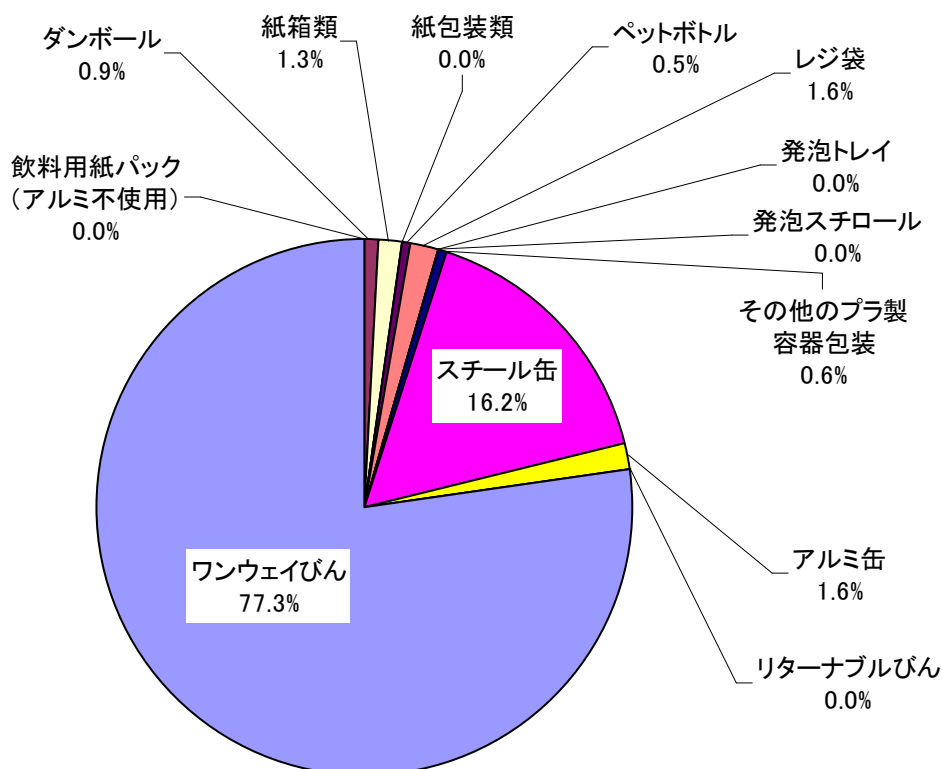


図2-30 不燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（本市全域：重量比）

第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみ中に混入している再資源化及び減量化が可能なもの全てを抽出し、再資源化や減量化がどの程度可能であるか状況の把握を行った。調査方法としては、汚れのないきれいなものと、汚れているもので組成品目を分類し、実際に再資源化できるかどうかという視点に立った検討を行っている。

1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地区、東部地区及び本市全域の可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-18 及び図 2-31、図 2-32 に示した。

本市から排出された可燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「紙類」で、全体の約 8.4% (H24 : 7.4%) を占めていた。「紙類」の構成比では、紙箱類の割合が高かった。「プラスチック類・ゴム・皮革類」については、約 2.7% (H24 : 4.2%) で、若干減少していた。

可燃ごみのうち再資源化・減量化が可能な分類としては、これまでの調査結果と同様に本市全域の約 47.8% (H24 : 49.2%) を占める「厨芥類」が挙げられる。本分類については、生ごみ処理容器購入費補助制度を実施していることや、厨芥類の水切りなどの啓発を実施しているため構成比が減少すると考えられる。本年度の調査結果は、昨年度と比較して若干の減少傾向となっていた。

表2-18 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区 分	西部地区 (%)	東部地区 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100.00	100.00	100.00
紙類	18.33	26.79	22.43
再資源化可能なもの	8.88	7.88	8.38
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.40	0.54	0.47
ダンボール	0.66	1.05	0.85
新聞紙	0.80	1.33	1.06
チラシ	1.41	1.34	1.37
書籍・雑誌類	1.79	0.34	1.08
紙箱類	2.09	1.91	2.01
紙包装類	0.02	0.03	0.02
OA用紙	0.16	0.04	0.10
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	1.55	1.30	1.42
再資源化不可能なもの	9.45	18.91	14.05
厨芥類	47.78	48.49	48.13
再資源化・減量化が可能なもの	47.66	47.89	47.77
手付かずの食品	3.65	2.48	3.08
調理くず・食べ残し	44.01	45.41	44.69
再資源化・減量化が不可能なもの	0.12	0.60	0.36
布類	4.29	2.76	3.54
再資源化可能なもの	2.15	0.53	1.36
再資源化不可能なもの	2.14	2.23	2.18
木・竹・わら類	2.41	5.31	3.81
プラスチック類・ゴム・皮革類	23.64	14.82	19.32
再資源化可能なもの	2.12	3.24	2.65
リサイクルできるペットボトル	0.57	0.38	0.47
リサイクルできるレジ袋	0.31	0.46	0.38
リサイクルできる発泡トレイ	0.17	0.05	0.11
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.13	0.06
その他プラ製容器包装でリサイクルできるもの	1.07	2.22	1.63
再資源化不可能なもの	21.52	11.58	16.67
不燃物類	3.41	1.77	2.61
再資源化可能なもの	3.17	0.36	1.81
スチール缶	0.00	0.04	0.02
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
その他金属類	0.07	0.22	0.15
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
小型家電製品	3.10	0.08	1.63
乾電池・体温計（水銀入）	0.00	0.02	0.01
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	0.24	1.41	0.80
その他分類できないもの	0.15	0.06	0.16

※ 上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示した各種データを採用している。

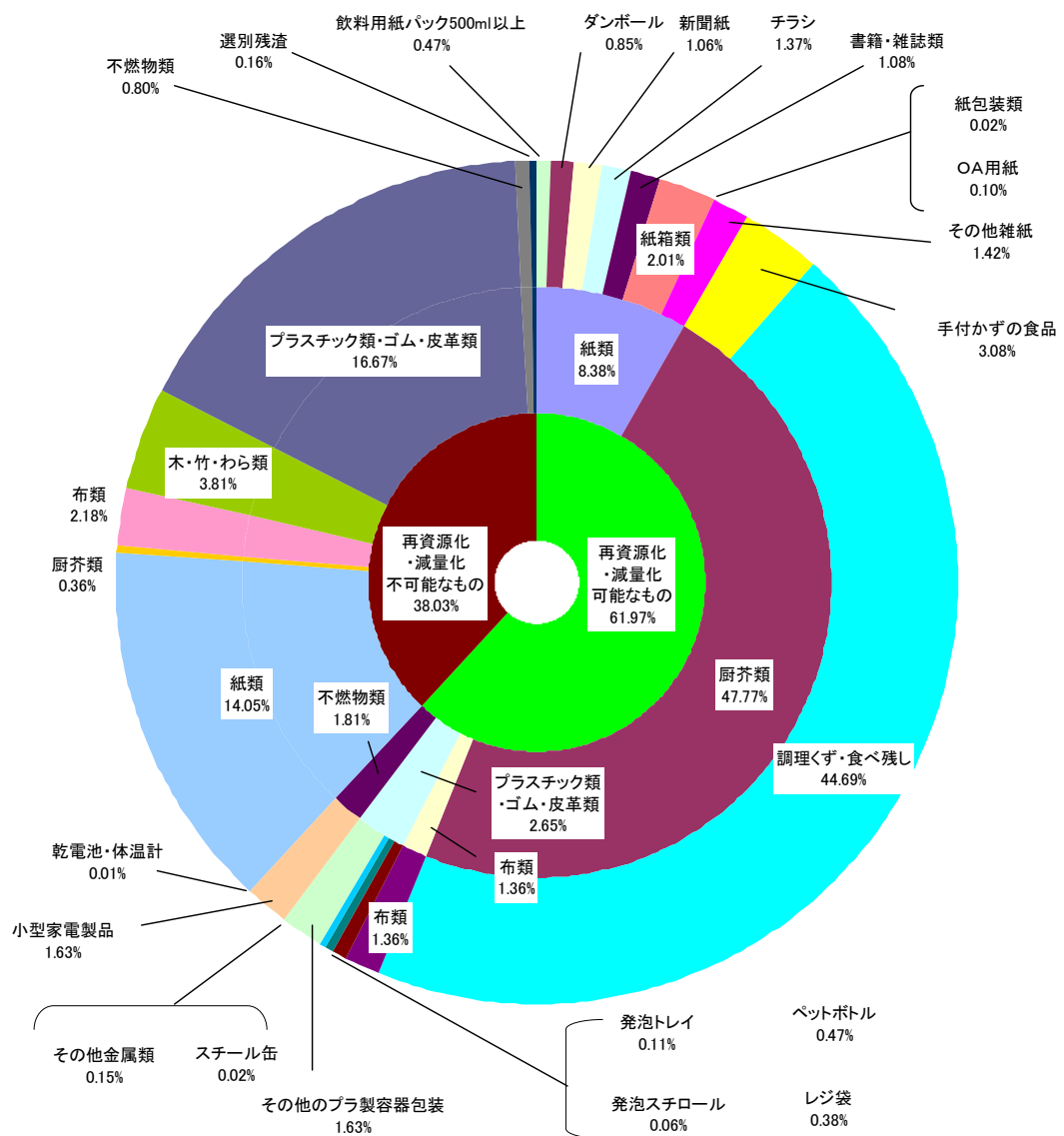


図2-31 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（本市全域：重量比）

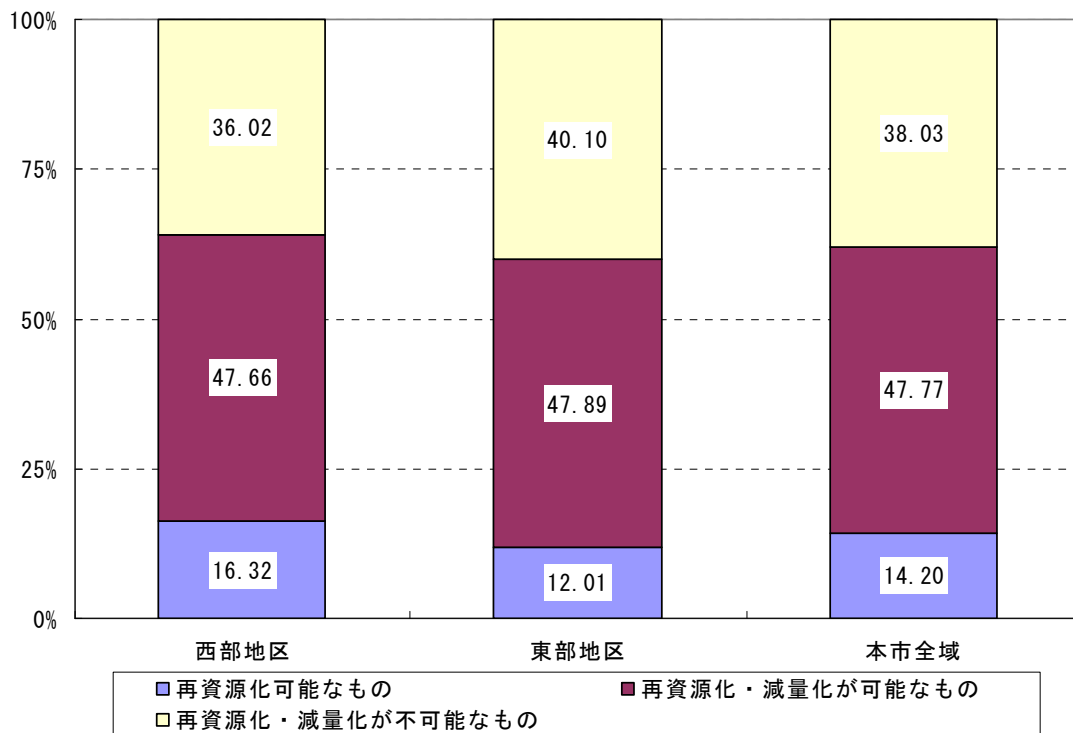


図2-32 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

2 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地区、東部地区及び本市全域の不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-19 及び図 2-33、図 2-34 に示した。

本市から排出された不燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「不燃物類」であり、スチール缶、その他金属類、ワンウェイびん、小型家電製品の占める割合が高かった。「不燃物類」の構成比は、全体の約 50.0%（H24：48.0%）を占めていた。「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」のうち再資源化が可能なものの構成比は、それぞれ約 0.6%（H24：0.7%）と約 0.3%（H24：0.1%）であった。

表2-19 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区 分	西部地区 (%)	東部地区 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100.00	100.00	100.00
紙類	0.67	0.76	0.70
再資源化可能なもの	0.44	0.73	0.57
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.06	0.35	0.20
新聞紙	0.00	0.05	0.02
チラシ	0.00	0.04	0.02
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.33	0.26	0.29
紙包装類	0.00	0.00	0.00
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.05	0.03	0.04
再資源化不可能なもの	0.23	0.03	0.13
厨芥類	2.22	0.71	1.47
再資源化・減量化が可能なもの	2.22	0.67	1.45
手付かずの食品	2.22	0.40	1.32
調理くず・食べ残し	0.00	0.27	0.13
再資源化・減量化が不可能なもの	0.00	0.04	0.02
布類	0.21	0.04	0.13
再資源化可能なもの	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	0.21	0.04	0.13
木・竹・わら類	0.06	0.01	0.03
プラスチック類・ゴム・皮革類	14.88	7.33	11.15
再資源化可能なもの	0.44	0.25	0.34
リサイクルできるペットボトル	0.19	0.02	0.10
リサイクルできるレジ袋	0.16	0.18	0.17
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
その他プラ製容器包装でリサイクルできるもの	0.09	0.05	0.07
再資源化不可能なもの	14.44	7.08	10.81
不燃物類	81.30	90.88	86.05
再資源化可能なもの	42.96	57.18	49.99
スチール缶	1.52	3.24	2.37
アルミ缶	0.14	0.42	0.28
その他金属類	19.19	29.71	24.39
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	4.83	16.85	10.77
小型家電製品	16.86	6.63	11.81
乾電池・体温計（水銀入）	0.02	0.23	0.12
蛍光灯	0.40	0.10	0.25
再資源化不可能なもの	38.34	33.70	36.06
その他分類できないもの	0.66	0.27	0.47

※ 上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示した各種データを採用している。

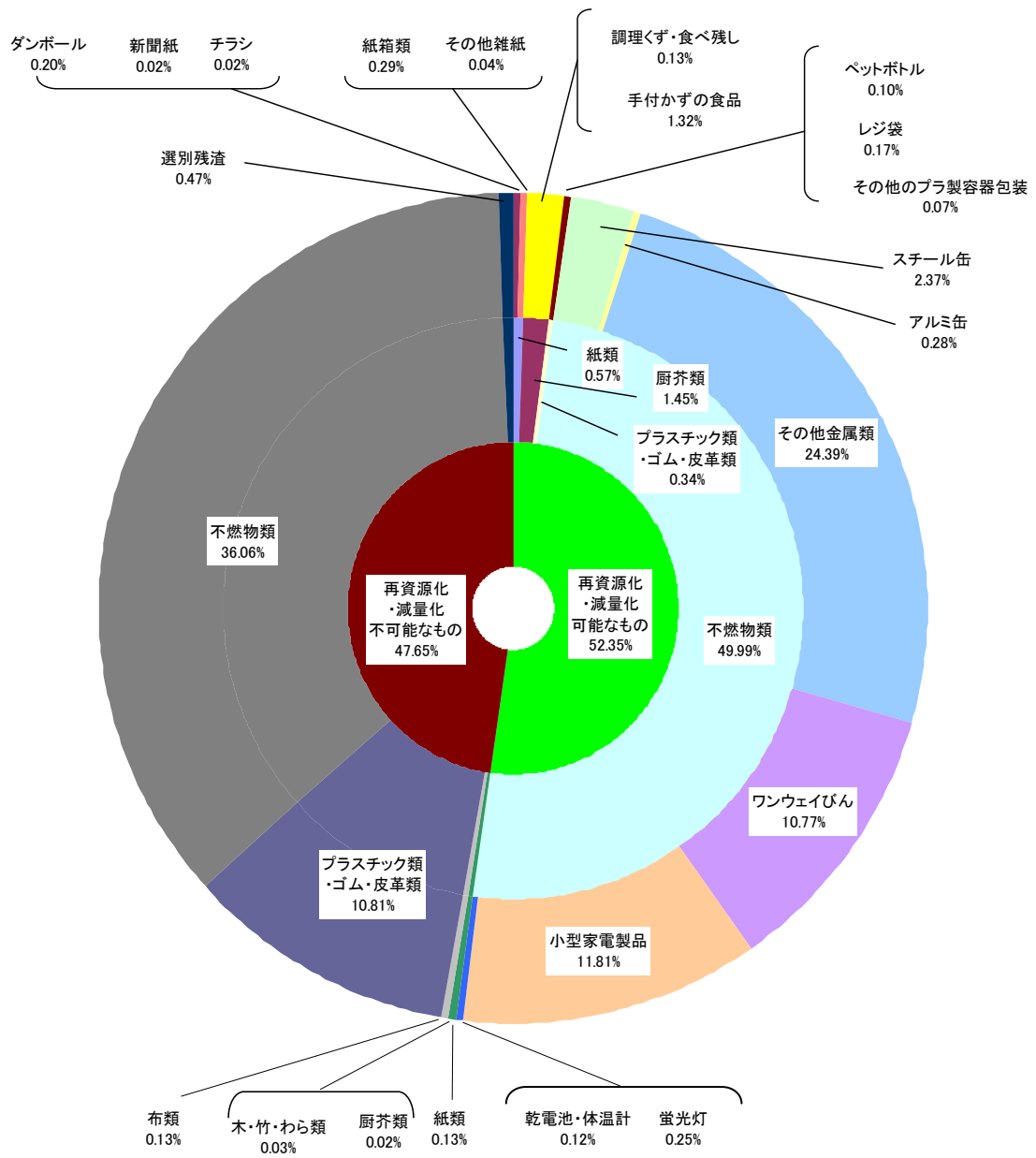


図2-33 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（本市全域：重量比）

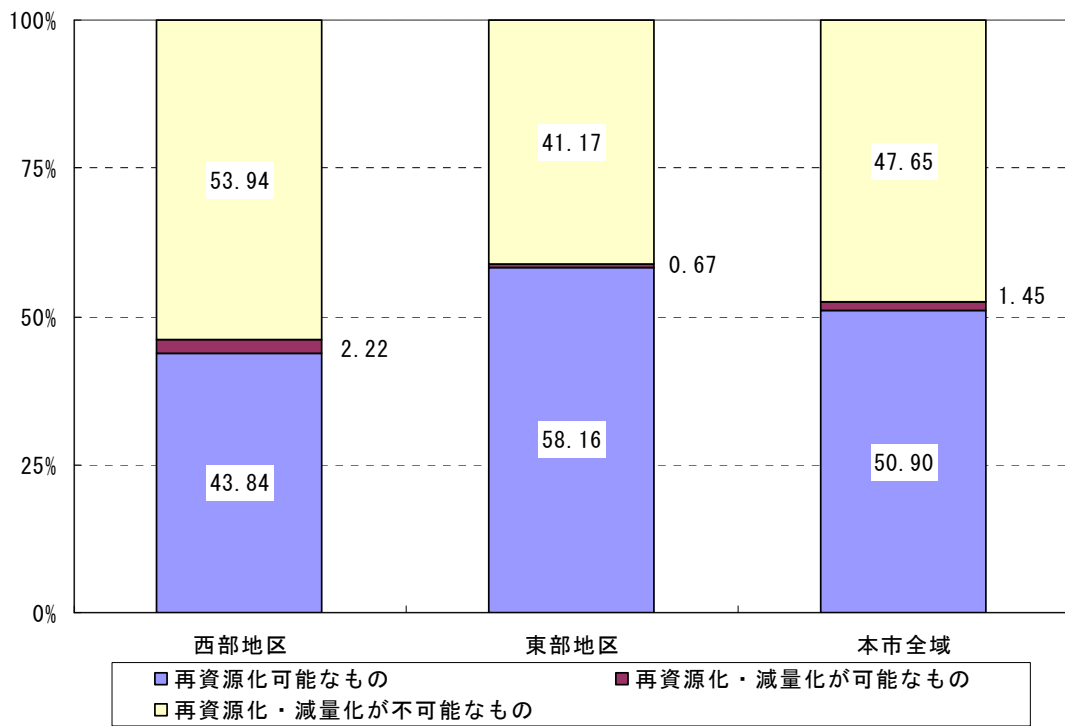


図2-34 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

第5節 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握

本節では、45ℓ（大袋）・30ℓ（中袋）・20ℓ（小袋）・10ℓ（特小袋）・5ℓ（超特小袋）の有料指定袋について、それぞれ1袋当たりの投入量を確認した。

1 可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 可燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地区及び東部地区の可燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-20に示した。

45ℓ（大袋）1袋につき西部地区では1.4～7.5kg、東部地区では2.8～9.5kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.6kgが投入されていた。

30ℓ（中袋）1袋につき西部地区では0.8～5.8kg、東部地区では1.0～5.7kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.3kgが投入されていた。

20ℓ（小袋）1袋につき西部地区では0.9～7.0kg、東部地区では1.1～6.4kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.2kgが投入されていた。

10ℓ（特小袋）1袋につき西部地区では0.6～2.3kg、東部地区では0.7～2.9kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.5kgが投入されていた。

5ℓ（超特小袋）1袋につき西部地区では2.1kg、東部地区で0.3～2.1kgの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.5kgが投入されていた。

次に、図2-35に可燃ごみの投入量の分布状況を示した。45ℓ（大袋）については5kg以上、30ℓ（中袋）については3～4kg、20ℓ（小袋）については2～4kg、10ℓ（特小袋）については1～2kg、5ℓ（超特小袋）については1～3kgの投入が主となっていた。

表2-20 可燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	18	14	23	17	14	19	8	10	1	4
総重量(kg)	77.10	71.00	83.00	50.00	43.60	62.70	10.30	16.80	2.10	5.30
1袋当たりの重量(kg/袋)	4.28	5.07	3.61	2.94	3.11	3.30	1.29	1.68	2.10	1.33
備考	(市域全体)4.63kg/袋		(市域全体)3.33kg/袋		(市域全体)3.22kg/袋		(市域全体)1.51kg/袋		(市域全体)1.48kg/袋	

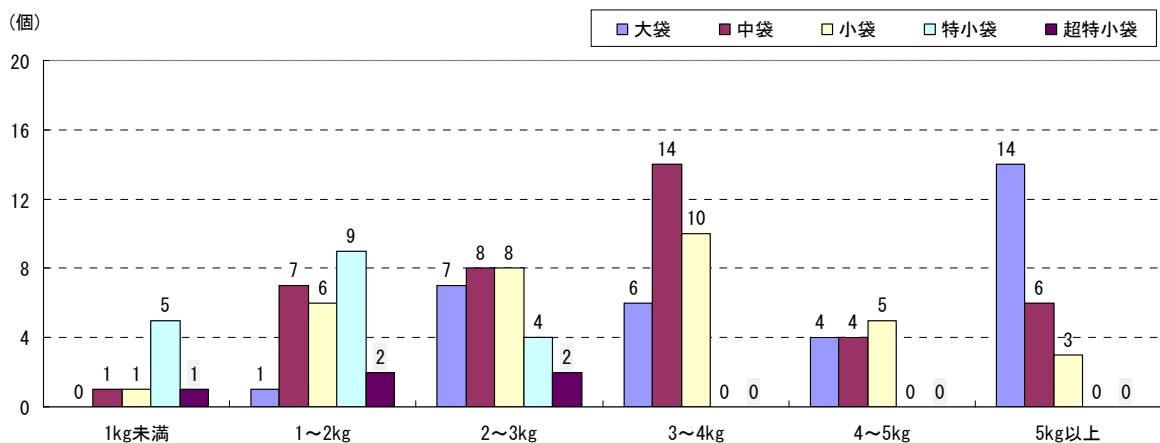


図2-35 可燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地区及び東部地区の可燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-21に示した。

45ℓ(大袋)1袋につき西部地区、東部地区ともに40～60ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約52.0ℓが投入されていた。

30ℓ(中袋)1袋につき西部地区では20～60ℓ、東部地区では15～55ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約39.6ℓが投入されていた。

20ℓ(小袋)1袋につき西部地区では15～50ℓ、東部地区では15～45ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約28.9ℓが投入されていた。

10ℓ(特小袋)1袋につき西部地区では5～20ℓ、東部地区では5～15ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約11.7ℓが投入されていた。

5ℓ(超特小袋)1袋につき西部地区では10ℓ、東部地区で5ℓの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.0ℓが投入されていた。

次に、図2-36に可燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45ℓ(大袋)については50ℓ以上、30ℓ(中袋)については30～50ℓ、20ℓ(小袋)については20～40ℓ、10ℓ(特小袋)については10～20ℓ、5ℓ(超特小袋)については10ℓ未満が主体であった。

表2-21 可燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	18	14	23	17	14	19	8	10	1	4
総容量(L)	950	715	995	590	395	560	100	110	10	20
1袋当たりの容積(L/袋)	52.78	51.07	43.26	34.71	28.21	29.47	12.50	11.00	10.00	5.00
備考	(市域全体)52.03L/袋		(市域全体)39.63L/袋		(市域全体)28.94L/袋		(市域全体)11.67L/袋		(市域全体)6.00L/袋	

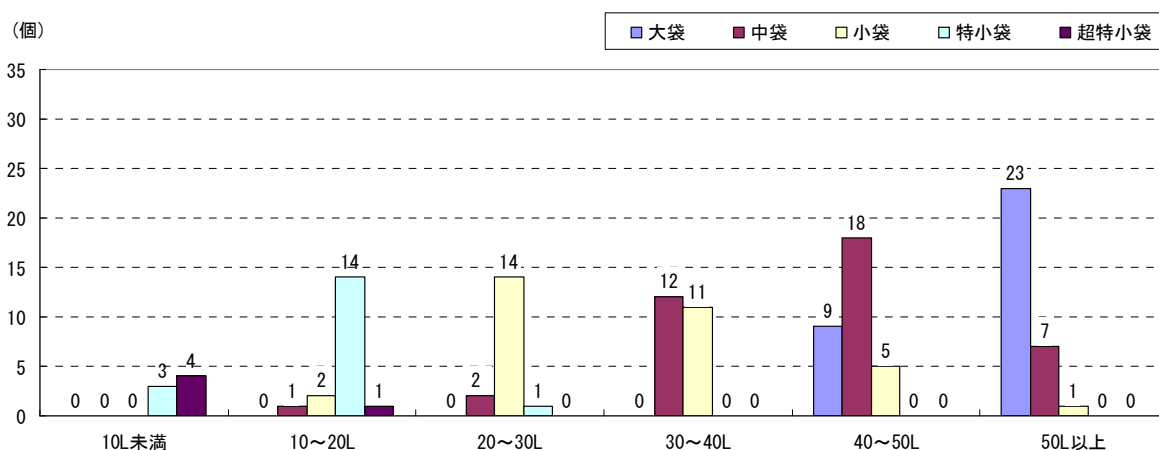


図2-36 可燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

2 不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地区及び東部地区の不燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-22に示した。

45ℓ(大袋)1袋につき西部地区では1.3~8.2kg、東部地区では3.5~8.8kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.9kgが投入されていた。

30ℓ(中袋)1袋につき西部地区では1.9~8.1kg、東部地区では3.2~12.1kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約5.3kgが投入されていた。

20ℓ(小袋)1袋につき西部地区では0.7~7.7kg、東部地区では1.3~5.7kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.6kgが投入されていた。

10ℓ(特小袋)1袋につき西部地区では0.5~4.0kg、東部地区では1.0~5.1kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.6kgが投入されていた。

5ℓ(超特小袋)1袋につき西部地区では0.4~1.8kg、東部地区では0.4~6.7kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.9kgが投入されていた。

次に、図2-37に不燃ごみの投入量の分布状況を示した。45ℓ(大袋)については5kg以上、30ℓ(中袋)については4~5kg以上、5ℓ(超特小袋)については1~2kg未満の投入が主体であった。また、20ℓ(小袋)と10ℓ(特小袋)については概ね平均的に分布していた。

表2-22 不燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	11	7	12	10	16	20	13	10	4	7
総重量(kg)	49.20	38.50	62.20	53.40	62.60	67.40	29.40	30.10	4.80	16.00
1袋当たりの重量(kg/袋)	4.47	5.50	5.18	5.34	3.91	3.37	2.26	3.01	1.20	2.29
備考	(市域全体)4.87kg/袋		(市域全体)5.25kg/袋		(市域全体)3.61kg/袋		(市域全体)2.59kg/袋		(市域全体)1.89kg/袋	

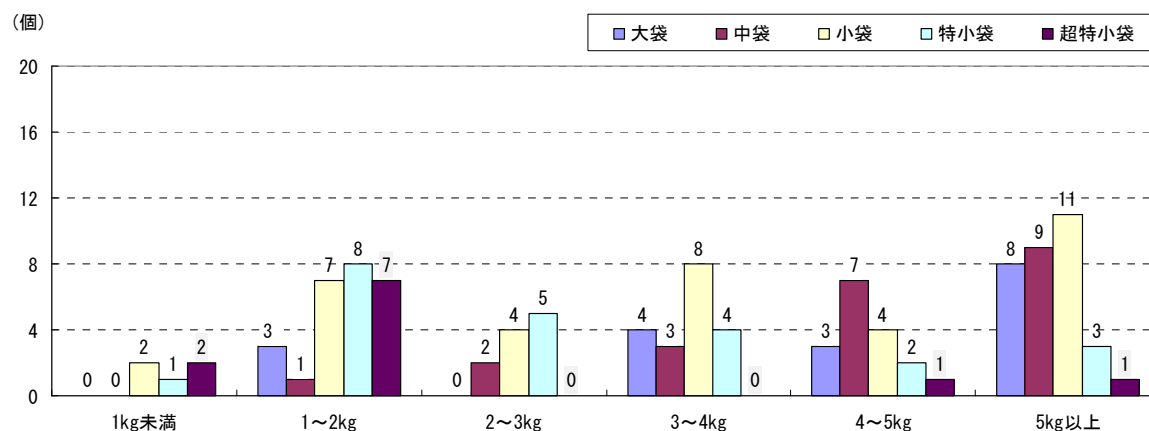


図2-37 不燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地区及び東部地区の不燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-23に示した。

45ℓ(大袋)1袋につき西部地区では20～60ℓ、東部地区では25～50ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約40.6ℓが投入されていた。

30ℓ(中袋)1袋につき西部地区では20～45ℓ、東部地区では15～45ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約32.0ℓが投入されていた。

20ℓ(小袋)1袋につき西部地区では10～45ℓ、東部地区では10～40ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約22.8ℓが投入されていた。

10ℓ(特小袋)1袋につき西部地区、東部地区ともに5～15ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約10.0ℓが投入されていた。

5ℓ(超特小袋)1袋につき西部地区、東部地区、本市全域ともに1袋当たり5.0ℓが投入されていた。

次に、図2-38に不燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45ℓ(大袋)については40ℓ以上、30ℓ(中袋)については20～50ℓ、20ℓ(小袋)については10～40ℓ、10ℓ(特小袋)については10～20ℓ未満、5ℓ(超特小袋)については10ℓ未満の投入が主であった。

表2-23 不燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	11	7	12	10	16	20	13	10	4	7
総容量(L)	440	290	385	320	375	445	120	110	20	35
1袋当たりの容量(L/袋)	40.00	41.43	32.08	32.00	23.44	22.25	9.23	11.00	5.00	5.00
備考	(市域全体)40.56L/袋		(市域全体)32.05L/袋		(市域全体)22.78L/袋		(市域全体)10.00L/袋		(市域全体)5.00L/袋	

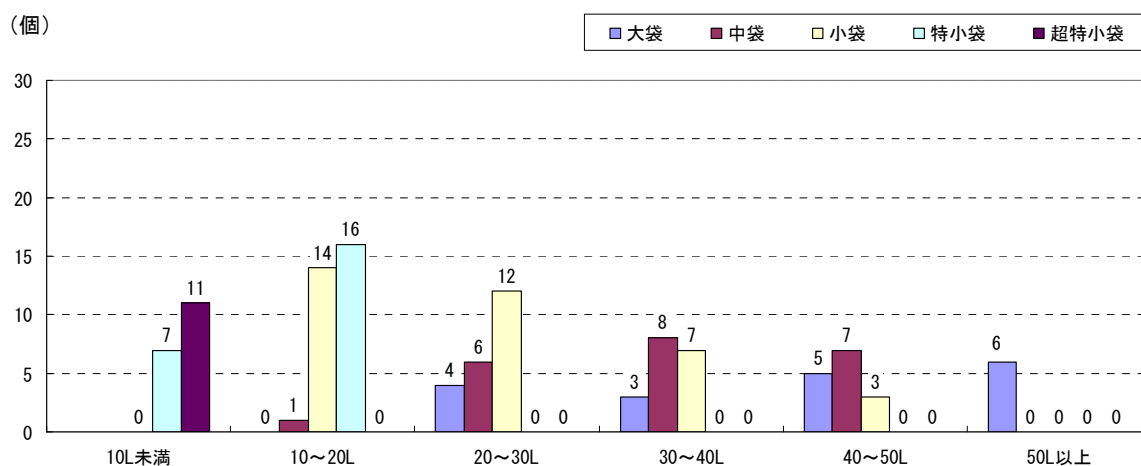


図2-38 不燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

家庭ごみ組成分析調査結果の総括

第3章 家庭ごみ組成分析調査結果の総括

今回実施した調査分析結果の総括を以下に整理した。

1 地域的なごみの排出特性の把握

可燃ごみについては、西部地区では「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「不燃物類」の構成比が増加し、「布類」及び「木・竹・わら類」の構成比が減少傾向となっていた。東部地区では平成 24 年度の調査結果と比較して、「厨芥類」の構成比が減少していた。

不燃ごみについては、西部地区では概ね平成 24 年度の調査結果と同様の構成比となっており、東部地区では「不燃物類」の構成比が増加していた。

本市全域の可燃ごみ及び不燃ごみの排出特性としては、平成 24 年度の調査結果と概ね同様の傾向であったが、不燃ごみについては東部地区の「不燃物類」の増加に伴って、本市全域でも「不燃物類」の増加が確認された。

経年的な変化については、平成 23 年度以降概ね同様の傾向となっているが、本調査における西部地区と東部地区の排出特性については、西部地区の「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が高く、東部地区の「紙類」の構成比が高かった。

2 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本市における分別状況は、可燃ごみでは平成 24 年度の調査結果と比較して適正分別に関する構成比が若干減少している傾向が確認された。また、混入している資源化物の構成比が約 10%程度であるため、今後も適正分別に関する啓発活動を継続していく必要があると考えられる。可燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約 10.4%、不燃ごみが約 2.6%となっていた（表 3-1、図 3-1 参照）。

不燃ごみでは平成 24 年度の調査結果と比較して適正分別に関する構成比が改善傾向となっていた。しかしながら、資源化物の構成比は平成 24 年度の約 12.6%から約 14.5%と若干増加しているため、可燃ごみ同様、適正分別に関する啓発活動を継続していく必要があると考えられる。

不燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約 14.5%、可燃ごみが約 13.2%となっていた（表 3-2、図 3-2 参照）。

表3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地区(%)	東部地区(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	11.77	8.90	10.35
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.40	0.54	0.47
ダンボール	0.66	1.05	0.85
新聞紙	0.80	1.33	1.06
チラシ	1.41	1.34	1.37
書籍・雑誌類	1.79	0.34	1.08
紙箱類	2.09	1.91	2.01
紙包装類	0.02	0.03	0.02
OA用紙	0.16	0.04	0.10
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	1.55	1.30	1.42
リサイクルできる布類	2.15	0.53	1.36
リサイクルできるペットボトル	0.57	0.38	0.47
リサイクルできる発泡トレイ	0.17	0.05	0.11
スチール缶	0.00	0.04	0.02
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池・体温計（水銀入）	0.00	0.02	0.01
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	3.41	1.71	2.58
適正な分別（可燃ごみ）	84.82	89.39	87.07
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示したデータを採用している。

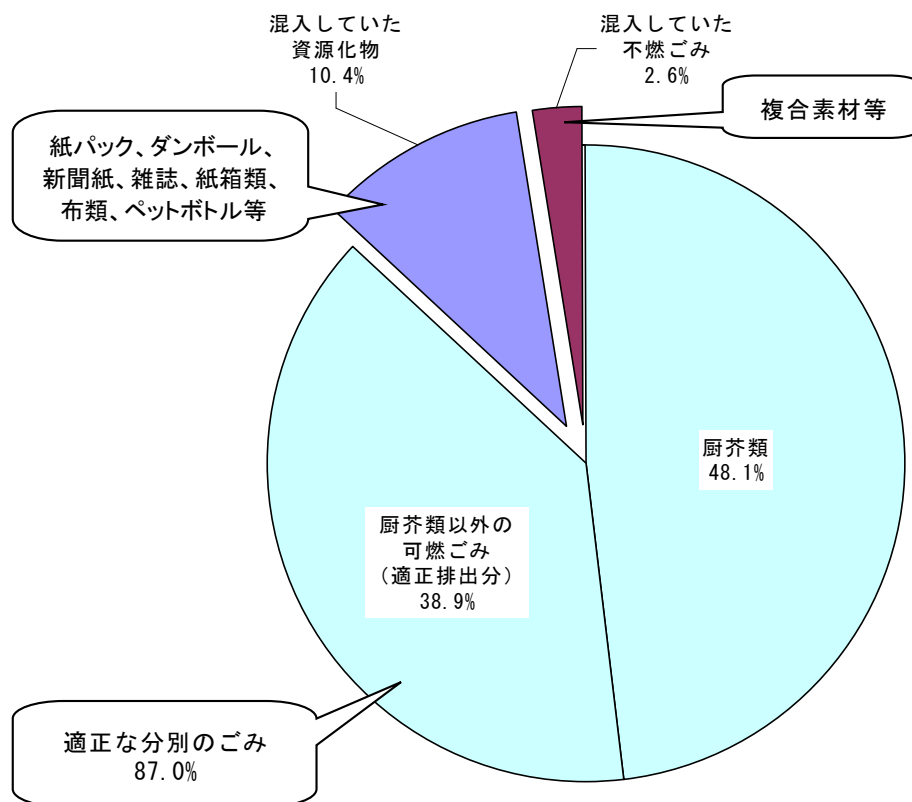


図3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地区(%)	東部地区(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	7.54	21.59	14.46
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.06	0.35	0.20
新聞紙	0.00	0.05	0.02
チラシ	0.00	0.04	0.02
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.33	0.26	0.29
紙包装類	0.00	0.00	0.00
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.05	0.03	0.04
リサイクルできる布類	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるペットボトル	0.19	0.02	0.10
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
スチール缶	1.52	3.24	2.37
アルミ缶	0.14	0.42	0.28
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	4.83	16.85	10.77
乾電池・体温計（水銀入）	0.02	0.23	0.12
蛍光灯	0.40	0.10	0.25
混入していた可燃ごみ	18.07	8.37	13.28
適正な分別（不燃ごみ）	74.39	70.04	72.26
合計	100.00	100.00	100.00

※ 上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示したデータを採用している。

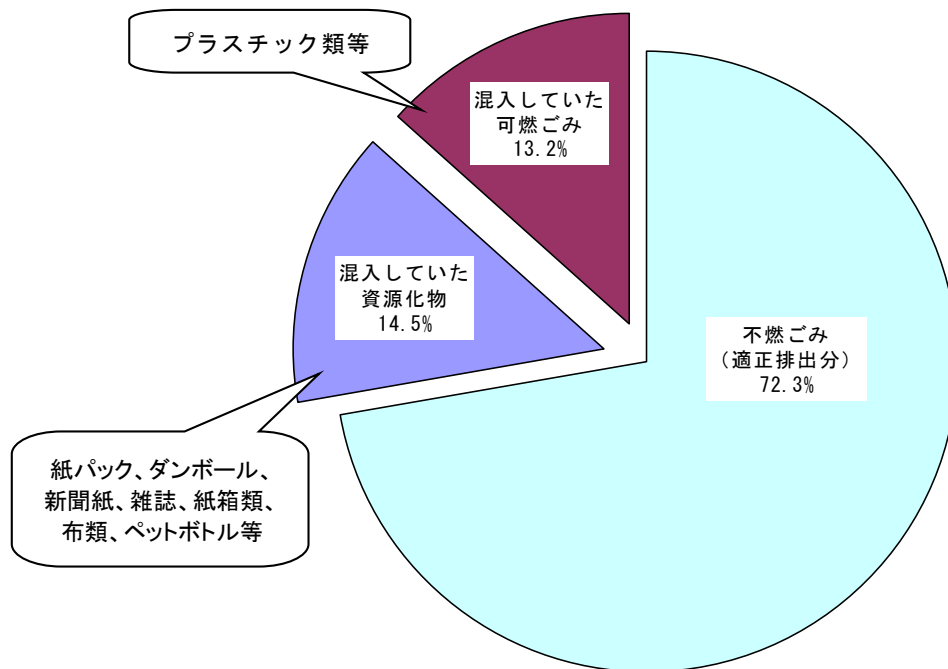


図3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

3 容器包装廃棄物の混入状況の把握

可燃ごみ及び不燃ごみに占める容器包装廃棄物の混入状況は、可燃ごみについては、ほぼ同程度の構成比となっている状況が確認されたが、不燃ごみについては、約6.0%程度の増加傾向となっていた。

可燃ごみについては飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、ペットボトルなど、不燃ごみについてはスチール缶、ワンウェイびんなど比較的容易に分別可能な品目も混入していることから今後も啓発を実施していく必要があると考えられる。

4 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

可燃ごみ及び不燃ごみに占める再資源化、減量化の可能性に関する状況としては、本市全域で見ると、可燃ごみで約62.0%（H24：63.0%）、不燃ごみで約52.4%（H24：49.1%）という状況であった。

可燃ごみのうち再資源化が可能な項目としては「紙類」の構成比が高い状況であるが、雑紙回収を推進することにより本項目の構成比の上昇を抑制することができると考えられる。減量化が可能な項目としては「厨芥類」の構成比が高く、全体の約半分の割合を占めていた。本年度の調査においても昨年度と同様の傾向が確認されたことから継続的な傾向であると考えられるが、来年度においても確認していく必要がある。

不燃ごみについては、スチール類、その他金属類、ワンウェイびんなどの品目の構成比が高くなっており、適正分別に向けた啓発を継続していく必要がある。また、レアメタル回収の可能性が期待できる小型家電製品についても、今後継続的に調査することが必要であると考えられる。

5 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握

ごみ袋1袋当たりに投入するごみの投入量としては、可燃ごみでは45ℓ（大袋）が4.6kg/袋、30ℓ（中袋）が3.3kg/袋、20ℓ（小袋）が3.2kg/袋、10ℓ（特小袋）が1.5kg/袋、5ℓ（超特小袋）が1.5kg/袋、不燃ごみでは45ℓ（大袋）が4.9kg/袋、30ℓ（中袋）が5.3kg/袋、20ℓ（小袋）が3.6kg/袋、10ℓ（特小袋）が3.0kg/袋、5ℓ（超特小袋）が1.9kg/袋という状況であった。

ごみ袋1袋当たりに投入するごみの投入容量としては、可燃ごみでは45ℓ（大袋）が52.0ℓ/袋、30ℓ（中袋）が39.6ℓ/袋、20ℓ（小袋）が28.9ℓ/袋、10ℓ（特小袋）が11.7ℓ/袋、5ℓ（超特小袋）が6.0ℓ/袋、不燃ごみでは45ℓ（大袋）が40.6ℓ/袋、30ℓ（中袋）が32.1ℓ/袋、20ℓ（小袋）が22.8ℓ/袋、10ℓ（特小袋）が10.0ℓ/袋、5ℓ（超特小袋）が5.0ℓ/袋という状況であった。

6 今後の課題

本市においては有料指定袋の導入、雑紙の分別開始、各種の支援制度の導入、適正分別の啓発等、ごみ減量化・資源化に係る施策を継続的に実施している。本年度の調査においても、これらの施策が浸透していきつつあることが確認できるが、項目によっては改善されていないものもあるため、適正分別に関する啓発を一層進めていく必要があると考えられる。

《ごみ組成分析調査の流れ1》

	状況写真	概要
収集段階		<p>各ステーションから調査サンプルを収集する。</p>
調査場所へ搬入		<p>調査実施場所へ搬入したサンプルを大小に分けて並べ、奇数番号のごみ袋を取り出し、調査検体とする。</p>
計量段階		<p>調査検体として抽出したごみ袋の重量と容積を全て計量する。</p>

《ごみ組成分析調査の流れ2》

	状況写真	概要
分別作業段階		<p>計量後の調査検体を、表 1-2 に示した品目に分別する。</p>
分別後の段階		<p>分別した調査検体を一箇所に集める。</p>
計量段階		<p>分別した調査検体を、品目ごとに計量する。計量は、分別を行った全ての品目に対して実施している。</p>
<p>以上の作業を、西部地域及び東部地域の可燃ごみ、不燃ごみに対して実施した。</p>		